
日本精神科看護技術協会
会員実態調査

調査結果報告書

平成 14 年 12 月

社団法人 日本精神科看護技術協会

はじめに

このたび「会員実態調査」の集計・分析を終え、報告書を作成することができました。本調査は、会員の皆様の勤務形態や精神科看護に対するお考えに加えて、協会に対するご意見・ご要望等を伺うもので、当協会としてもはじめての試みでした。

本報告書は、会員の皆様方には勿論のこと、精神科看護に関わる多くの方々にもおおいに参考になるものと思われます。また、協会としても、本報告書を今後の学会・研究会や各種事業等の企画・運営、会員の皆様方への情報提供の方法等に役立て、精神科看護の更なる発展に貢献していきたいと考えております。

今回の調査に際し、アンケートにご協力いただいた 2,007 名の会員の皆様方には、ご多忙にもかかわらず貴重なご意見をお寄せいただき、ご協力に心から感謝しております。

また、本調査事業の実施にご理解・ご協力をいただきました各位に対して、厚く御礼申し上げます。

平成 14 年 12 月 20 日

社団法人日本精神科看護技術協会
情報センター

日本精神科看護技術協会会員実態調査

目 次

	頁
はじめに	1
目 次	2
調査設計	4
母集団の内訳	6
まとめと考察	9
本 編	17
§ 1. 会員自身について	19
1) 最終学歴	19
2) 所有している免許	20
3) 勤務状況	21
4) 転職経験	26
5) 年収	29
§ 2. 勤務先について	34
1) 主たる勤務先	34
2) 勤務形態	35
3) 勤務先への満足度	40
§ 3. 会員について	45
1) 会員期間	45
2) 会員を辞めた経験	46
3) 会員になった動機	47
4) 会費の負担状況	48
5) その他の所属団体	49
§ 4. 協会について	45
1) 『日精看ニュース』の閲読状況	50

2) 学会と研修会	51
3) 協会ホームページ	56
4) 認定制度の認知状況	59
5) 協会主催の海外視察の認知状況	60
§ 5. 精神科看護に対する考えについて	62
調査票	71

日本精神科看護技術協会会員実態調査

調査設計

I 調査の目的

会員の勤務形態や精神科看護に対する考え、並びに協会に対する意見・要望等について調査することにより、今後の協会の事業や活動の企画・運営に役立てるとともに、精神科看護の更なる発展に資する。

II 調査の対象

全国の会員の中から、無作為に全会員の約1割に相当する3,764名を抽出し、これを対象とした。

III 調査の方法

調査対象として抽出した上記会員宛に調査票を郵送し、2,007票（回収率：53.5%）の有効票を回収した。

IV 調査の内容

1) 会員自身について

- ①性別と年齢
- ②配偶者と子供の有無
- ③最終学歴
- ④所有している免許の種類
- ⑤勤務経験施設
- ⑥勤務期間
- ⑦採用形態と職位
- ⑧転職経験
- ⑨年収

2) 勤務先について

- ①勤務先
- ②勤務している診療科

- ③勤務先の設置主体
 - ④勤務先の週休形態
 - ⑤支給を受けている手当
 - ⑥託児所・保育所の有無
 - ⑦現在の勤務先を選んだ理由
 - ⑧勤務先で満足している項目，不満に感じている項目
- 3) 会員について
- ①会員期間
 - ②会員を辞めた経験
 - ③会員になった動機
 - ④会費の負担方法
 - ⑤日精看以外の所属団体
- 4) 協会について
- ①日精看ニュースの閲読状況
 - ②協会ホームページの閲覧状況
 - ③学会，研修会への参加経験
- 5) 精神科看護に対する考え

V 調査の期間

2002年8月～12月

VI 調査の主体

社団法人 日本精神科看護技術協会

母集団の内訳

■性別

合計	男性	女性	無回答
2007	491	1,510	6
100.0%	24.5%	75.2%	0.3%

■年齢

合計	30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60歳以上	無回答
2007	294	426	654	507	98	28
100.0%	14.6%	21.2%	32.6%	25.3%	4.9%	1.4%

※平均 42.9 歳

■配偶者と子供

合計	配偶者			子供		
	有	無	無回答	有	無	無回答
2007	1,414	581	12	1468	482	57
100.0%	70.5%	28.9%	0.6%	73.1%	24.0%	2.8%

■最終学歴

合計	准看護養成	2年課程	3年課程	大学など	その他	無回答
2007	599	464	828	56	46	14
100.0%	29.8%	23.1%	41.3%	2.8%	2.3%	0.7%

■所有免許の種類（複数回答）

合計	看護師	准看護師	保健師	助産師	介護支援 専門員	精神保健 福祉士	無回答
2007	1,470	811	40	18	128	20	3
100.0%	73.2%	40.4%	2.0%	0.9%	6.4%	1.0%	0.1%

■勤務先の設置主体

合 計	国・公的 機関	民 間	無回答
2007	425	1,565	17
100.0%	21.2%	78.0%	0.8%

■勤務先の所在地

都道府県名		数	比率	都道府県名		数	比率
北海道・東北	北海道	89	4.4%	中国・四国	京都府	21	1.0%
	青森県	19	0.9%		大阪府	84	4.2%
	岩手県	39	1.9%		兵庫県	55	2.7%
	秋田県	43	2.1%		奈良県	10	0.5%
	山形県	52	2.6%		和歌山県	26	1.3%
	宮城県	6	0.3%		福井県	24	1.2%
	福島県	41	2.0%		鳥取県	20	1.0%
関東・甲信越	茨城県	24	1.2%	島根県	41	2.0%	
	栃木県	58	2.9%	岡山県	62	3.1%	
	群馬県	45	2.2%	広島県	98	4.9%	
	埼玉県	31	1.5%	山口県	50	2.5%	
	千葉県	81	4.0%	徳島県	31	1.5%	
	東京都	73	3.6%	香川県	29	1.4%	
	神奈川県	63	3.1%	愛媛県	72	3.6%	
	新潟県	57	2.8%	高知県	28	1.4%	
	長野県	14	0.7%	九州・沖縄	福岡県	38	1.9%
	山梨県	37	1.8%		佐賀県	62	3.1%
東海・北陸・近畿	富山県	11	0.5%		長崎県	29	1.4%
	石川県	42	2.1%		熊本県	77	3.8%
	岐阜県	46	2.3%		大分県	21	1.0%
	静岡県	40	2.0%		宮崎県	20	1.0%
	愛知県	63	3.1%		鹿児島県	30	1.5%
	三重県	35	1.7%	沖縄県	54	2.7%	
	滋賀県	10	0.5%	無回答	6	0.3%	

まとめと考察

本協会は、設立から27年目を迎え、会員数も40,000人を超えている。今回、会員の勤務形態や精神科看護に対する考えに加えて、本協会に対する意見・要望等を伺うべく、全会員の約1割に相当する3,764名の会員に対してアンケートを送付し、2,007名（回収率53.5%）の会員から回答を得た。

1. 会員自身について

会員の免許についてみると、看護師の免許で働いている会員の割合は72.7%である。また、准看護師の割合は26.3%であり、他の免許の割合は少ない。

職位の状況を見ると、管理職に就いている会員の割合は23.3%である。これを免許別にみると、看護師の30.5%が管理職に就いているのに対して、准看護師の同割合は3.8%である。

それぞれを年齢別にみると、看護師は、「50～60歳未満」の会員の半数近く（46.9%）が管理職に就いているのに対して、准看護師では、同割合が5.1%である。看護師と准看護師で、職位の状況に大きな差があるといえる。

転職経験の状況についてみると、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は6割近く（56.9%）を占めている。

また、転職経験者1人当たりの平均転職回数は2.4回であり、転職経験者のうち、複数回（2回以上）の転職経験のある人が64.6%を占めている。転職経験者の大半が複数回の転職を経験している状況が窺われる。

続いて年収の状況についてみると、年収額を「500万円以上」と「500万円未満」に区切って分析したところ、全体では、「500万円未満」の会員の割合が6割近くを占めている。

看護師に限って年収の状況を見ると、総数では、「500万円未満」が53.1%、「500万円以上」が34.6%である。これを年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高くなり、「50～60歳未満」になると同割合が6割近くを占めている。

同様に准看護師に限って年収の状況を見ると、総数では「500万円未満」が71.0%、「500万円以上」が13.4%である。年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高くなるものの、50歳代になっても同割合が25%に満たない状況であり、看護師の同割合（58.3%）と比較すると大きな差がみられる。

次に国・公的機関に勤務している会員に限って年収の状況を見ると、総数では、「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が約6割（60.2%）を占めている。年齢別に

みると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が急速に高まり、50歳代になると同割合が83.3%を占めている。国・公的機関では、年齢層が高まると共に、着実に急速に年収が高まる傾向がみられる。

一方、民間に勤務している会員に限って年収の状況をみると、総数では、「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が29.7%であり、国・公的機関のそれ（60.2%）を大きく下回っている。年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高まるものの、50歳代になっても同割合が34.6%であり、やはり国・公的機関のそれ（83.3%）を大きく下回っている。民間と国・公的機関で、年齢層による年収の状況に大きな差があるといえる。

2. 勤務先について

主たる勤務先について調査したところ、「病院」の割合が95.4%を占めており、ほとんどの会員が、主に「病院」で勤務している。「病院」を主たる勤務先としている会員（1,821名）に対して、勤務している診療科について調査したところ、「精神科」の割合が95.1%を占めており、病院勤務者のほとんどが「精神科」に勤務しているといえる。

勤務先の週休形態についてみると、「週2日以上休みをとれる」会員の割合が74.6%を占めている。

また、勤務先から支給を受けている手当についてみると、「通勤手当」が86.0%、「夜勤手当」が76.3%であり、これらの手当についてはほとんどの会員が支給を受けているとみられる。

注：本項目は対象の属性により支給されないものもあり、この割合が制度の有無を表しているものではない。

続いて、通勤先で最も満足している項目についてみると、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が34.6%で最も高く、これに「福利厚生等」（23.2%）、「人間関係」（12.6%）・・・と続いている。一方、「業務内容」を挙げた会員の割合は5.5%にとどまっている。

また、通勤先で最も不満に感じている項目について調査したところ、「福利厚生等」を挙げた会員の割合が50.5%で半数以上を占めている。

考 察

勤務先の週休形態は、「週2日以上休みをとれる」会員の割合が74.6%を占めており、看護師の間でも、週休2日制が定着してきたといえる。

手当については、「通勤手当」と「夜勤手当」は、ほとんどの会員が支給を受けて

いる。ただ、今回の調査では明らかにならないことが多く、今後、当該項目について更に詳細に検討していきたいと考える。

また、職場の満足度をみてもわかるように、「福利厚生等」に不満を感じている会員が多く、今後、各勤務先の福利厚生の状況について調査することで、問題点を明らかにしていきたい。

3. 会員について

会員期間についてみると、会員1人当たりの平均期間は9.2年であり、会員期間が5年未満のフレッシュ会員が38.7%、同5～20年未満の中堅会員が43.9%、同20年以上のベテラン会員が13.9%となっている。

会員になった動機は、「精神科の職能団体だから」との動機を挙げた会員の割合が55.2%で最も高く、これに「学会や研修会に参加するため」(44.2%)、「勧められたから」(43.4%)、「業務命令・指示・規則」(28.7%)・・・と続いている。

これを年齢別にみると、高齢層では、「精神科の職能団体だから」「日精看ニュースを読みたいから」との動機を挙げた会員の割合が高く、若年層では、「勧められたから」「業務命令・指示・規則」との動機を挙げた会員の割合が高くなっている。

考 察

高齢層は、能動的な項目を動機としている会員の割合が高いのに比べて、若年層は受動的な項目を動機としている会員の割合が高い。

また、若年層は、学会や研修会への参加についても不満を持っている会員が多いようであり、今後は、若年層でも会員のメリットを充分感じられるような企画や活動を推進していきたいと考える。

4. 協会について

『日精看ニュース』の閲読状況について調査したところ、「必ず読む」会員の割合が37.4%である。「時々読む」会員の割合(48.1%)を併せると8割以上が閲読しており、『日精看ニュース』の閲読率は高いとみられる。

ただ、協会ホームページの閲覧状況についてみると、ホームページを閲覧している(「よくみる」+「時々みる」)会員の割合は11.2%であり、ホームページはあまり活用されていない状況が窺われる。

続いて協会主催の学会・研修会への参加経験の有無についてみると、学会の参加経験が「有る」と回答した会員の割合は64.3%、研修会の参加経験が「有る」と回答し

た会員の割合は55.6%であり、どちらも半数以上の会員が参加経験を有している。

一方、支部主催の研修会への参加経験の有無についてみると、「有る」と回答した会員の割合は76.9%であり、大半の会員が参加経験を有しているといえる。

認定制度の認知状況についてみると、認知している（「目指している」+「知っている興味がある」+「知っているが興味はない」）会員の割合は82.2%を占めている。

また、認定制度に興味を持っている会員も4割以上を占めている。

協会主催の海外視察の認知状況についてみると、認知している（「知っている興味がある」+「知っているが興味はない」）会員の割合は56.6%を占めており、半数の会員が認知しているといえる。また、海外視察に興味を持っている会員は22.0%である。

これを『日精看ニュース』の閲読状況別にみると、認知している会員、興味を持っている会員のどちらの割合も、『日精看ニュース』をよく閲読している会員ほど高くなっている。『日精看ニュース』が、会員に情報を提供するのに役立っているといえる。

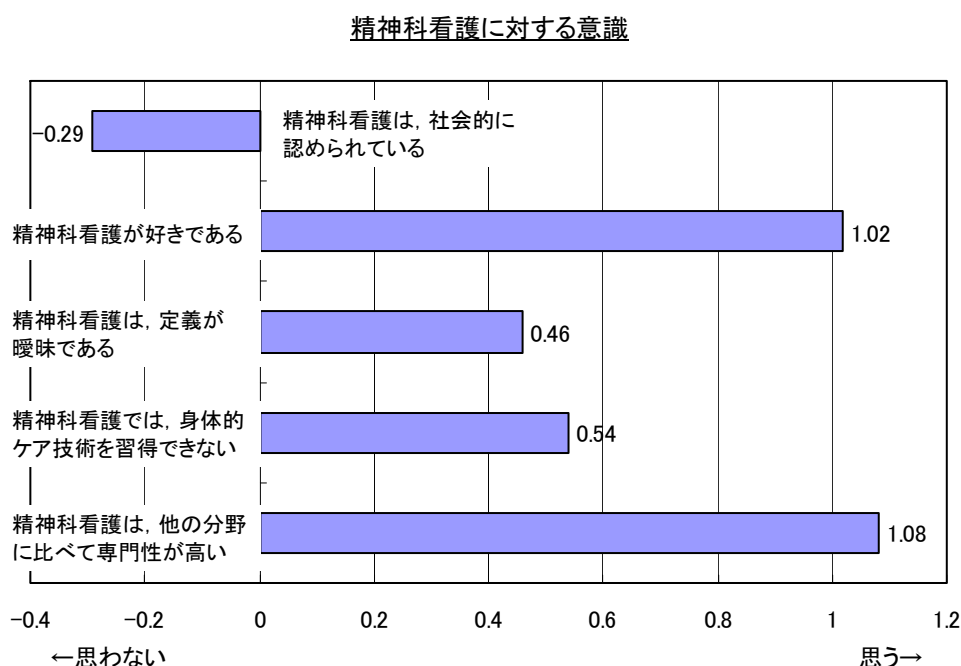
考 察

『日精看ニュース』に対する評価はまずまずであり、多くの会員に閲読されている状況が窺われた。

ただ、ホームページについては、閲覧している会員が少なく、掲示板コーナーを設けていながらも会員同士の情報交換の場になり得ていない。ホームページは、会員がタイムリーに情報を入手でき、かつ会員同士が情報交換できる場として有益であることから、更に魅力有る内容とすることで、閲覧率の向上に努めていきたいと考える。

また、学会や研修会などについては、若年から高齢の会員まで、少しでも多くの方々に参加していただけるよう、開催地、開催回数、テーマなどについて検討していきたい。

5. 精神科看護について



精神科看護についての各種考えに対する意識について、「全く思わない」を-2点、「あまり思わない」を-1点、「まあまあ思う」を+1点、「非常に思う」を+2点として、平均スコアを算出したところ、「精神科看護は、他の分野に比べて専門性が高い」が1.08点、「精神科看護が好きである」が1.02点であり、これらについては、肯定的な意識を持っている人が多いとみられる。

ただ、「精神科看護は、社会的に認められていると思う」が-0.29点であり、多くの会員が同考えに否定的な意識を持っていると推察される。

また、各考えについて、年齢別に分析したところ、全体的に高齢層ほど、精神科看護に肯定的且つ前向きな意識を持っている人の割合が高まる傾向がみられる。

考 察

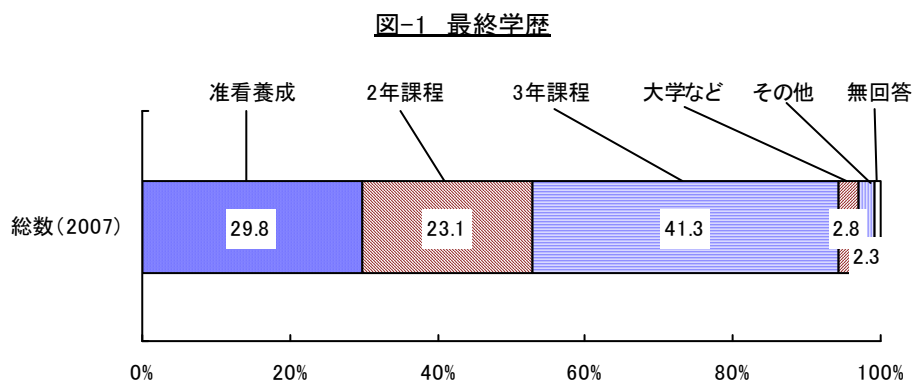
「精神科看護は、社会的に認められていない」と考えている人が多いとみられる。精神科看護師のみならず、他の分野の看護師や一般世間の人々に対して、精神科看護についての理解を促すことで、精神科看護師の地位を更に高めていきたい。

また、「精神科看護では、身体的ケア技術を習得できない」と考えている人も多くなっているが、研修制度を充実させることなどにより、(特に若年層の会員において)こういった不安が払拭されるよう努めていきたい。

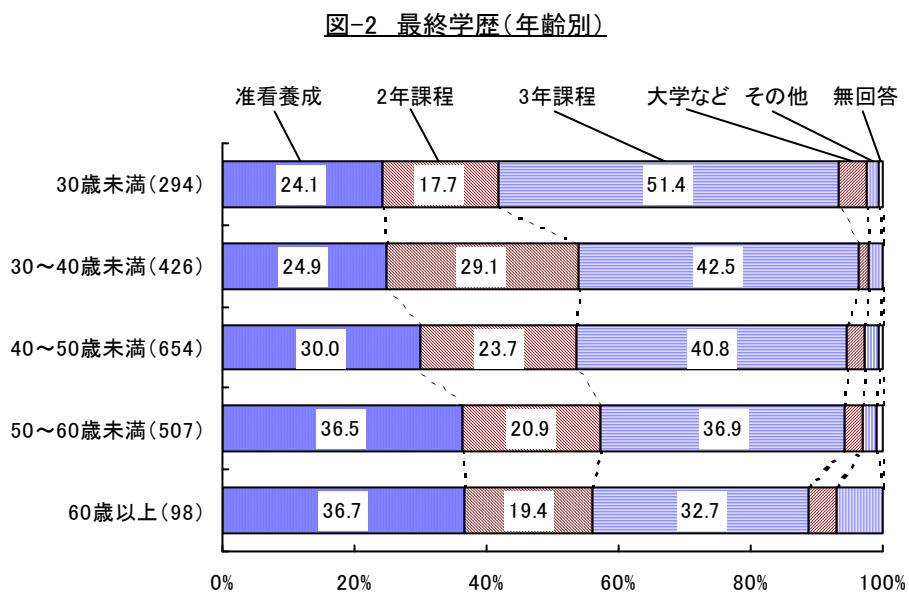
本 編

§ 1. 会員自身について

1) 最終学歴

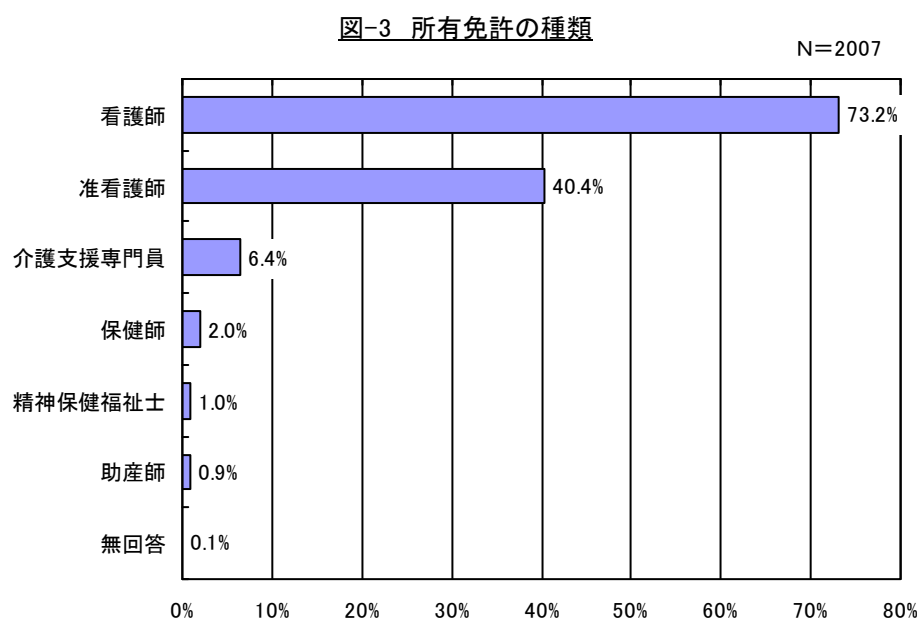


協会の会員 2,007 名に対して、最終学歴について調査したところ、「3年課程」の割合が 41.3% で最も高く、これに「准看養成」(29.8%)、「2年課程」(23.1%)・・・と続いている。



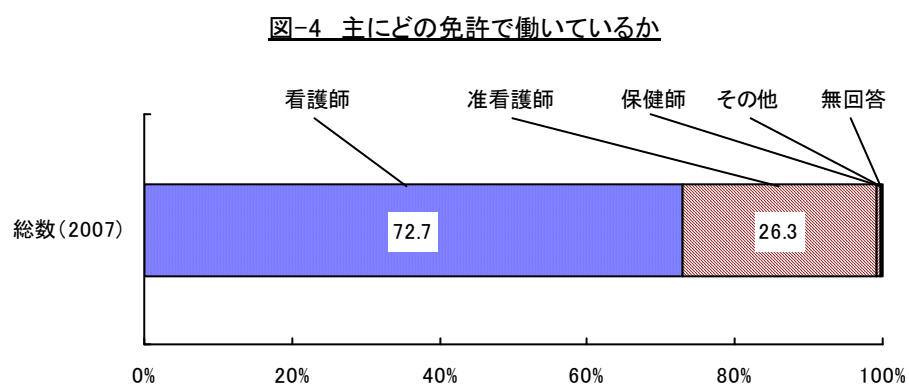
最終学歴の状況を年齢別にみると、年齢層が低くなるほど「3年課程」の割合が高まり、「准看養成」の割合が低下する傾向がみられる。30歳未満の若年層では、「3年課程」が半数以上を占め、「准看養成」が 24.1% と低くなっている。

2) 所有している免許



所有している免許の種類について調査したところ、「看護師」の割合が73.2%で突出して高く、これに「准看護師」が40.4%で続いている。

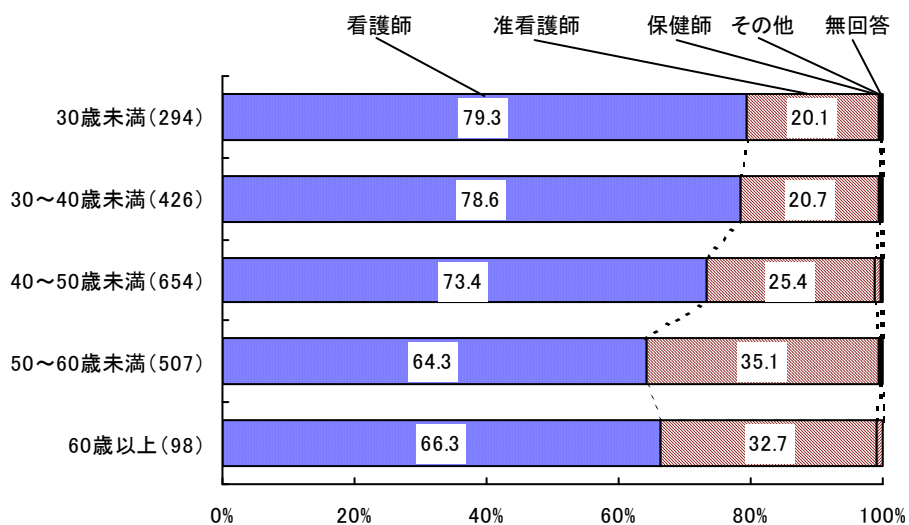
また、「介護支援専門員」の割合が6.4%と低く、「保健師」「精神保健福祉士」「助産師」は、いずれもわずかである。



続いて、現在、主にどの免許で働いているかについて調査したところ、「看護師」の割合が72.7%を占めている。

一方、「准看護師」の割合は、26.3%である。

図-5 主にどの免許で働いているか(年齢別)

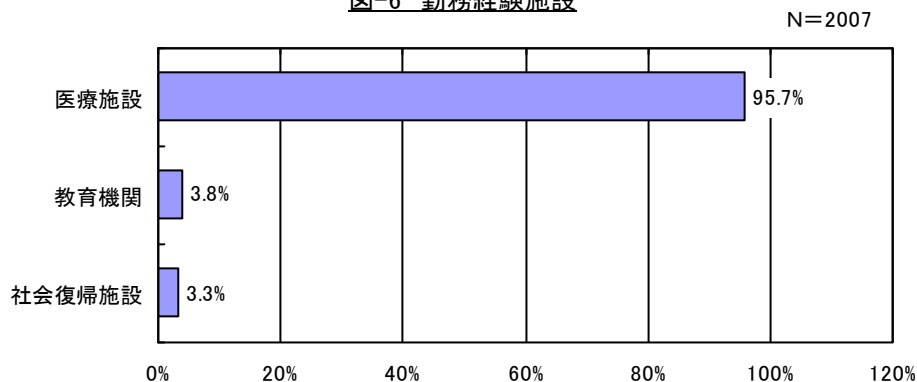


これを年齢別にみると、年齢層が低くなるほど「看護師」の割合が高まり、「准看護師」の割合が低下する傾向がみられる。30歳未満の若年層では、「看護師」の免許で働いている会員の割合がほぼ8割を占めている。

3) 勤務状況

①勤務経験施設

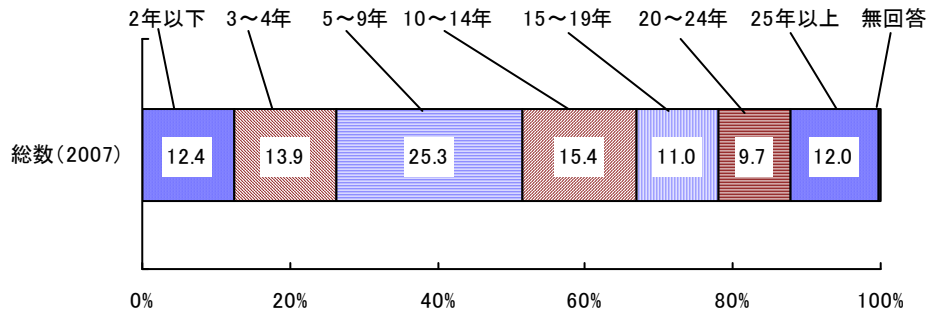
図-6 勤務経験施設



看護師、准看護師、保健師、助産師等の免許を取得してから勤務経験がある施設（パートは含まない）について調査したところ、「医療施設」が95.7%で突出して高く、「教育機関」「社会復帰施設」での勤務経験がある会員は、いずれもわずかである。

②現在勤務している施設での勤務年数

図-7 現在の勤務先での勤務年数

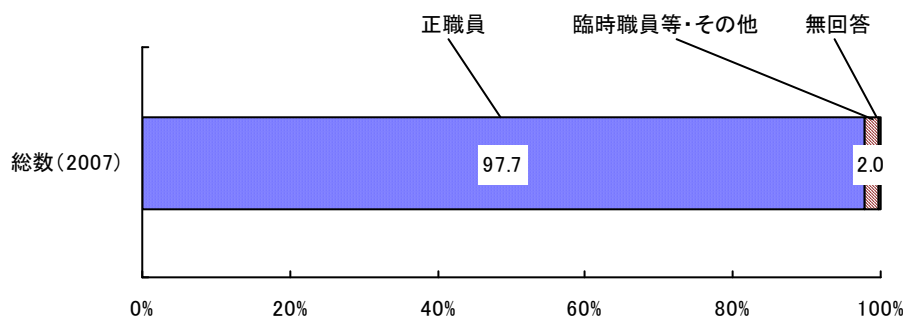


現在勤務している施設での勤務年数について調査したところ、会員1人当たりの平均勤続年数は11.7年である。

勤続年数をカテゴリー別にみると、同じ勤務先に10年以上勤務している会員の割合が半数近くを占めている。また、20年以上に渡って同じ勤務先に勤務している会員の割合は、約2割である。

③採用形態

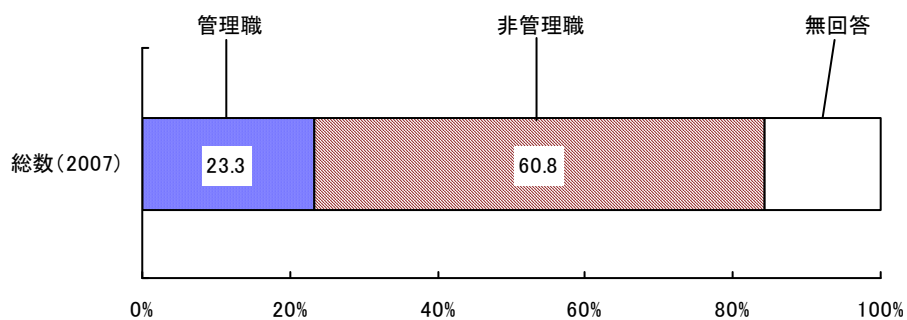
図-8 採用形態



勤務先での採用形態について調査したところ、「正職員」の割合が97.7%を占めている。

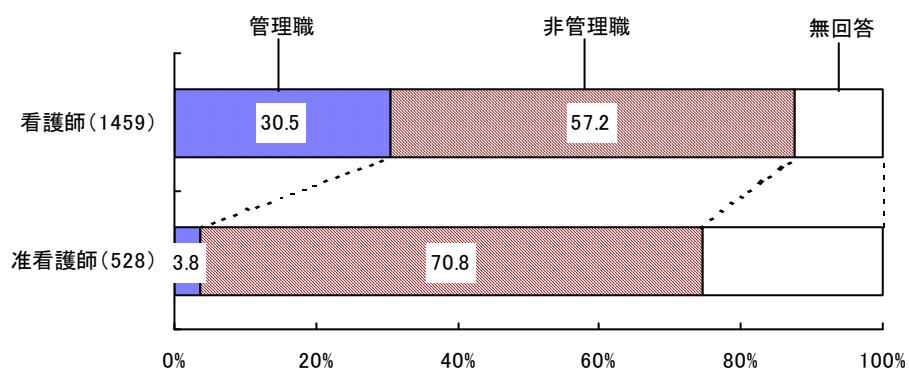
④職位

図-9 職位



職位について調査したところ、「管理職」の割合は23.3%である。

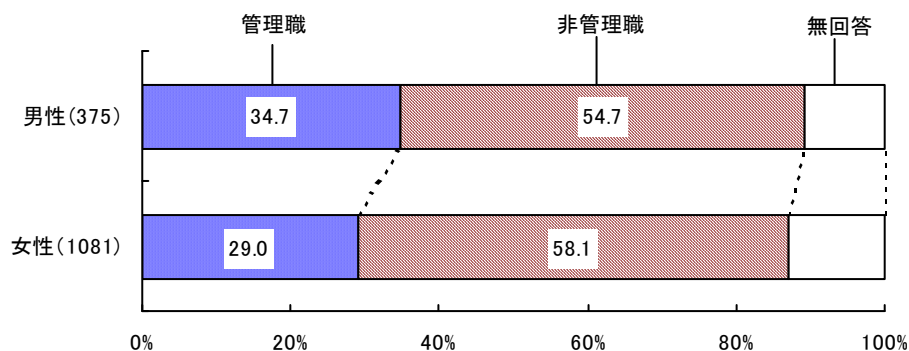
図-10 職位(免許別)



職位の状況を免許別にみると、「管理職」の割合は、看護師が30.5%であるのに対して、「准看護師」は3.8%である。

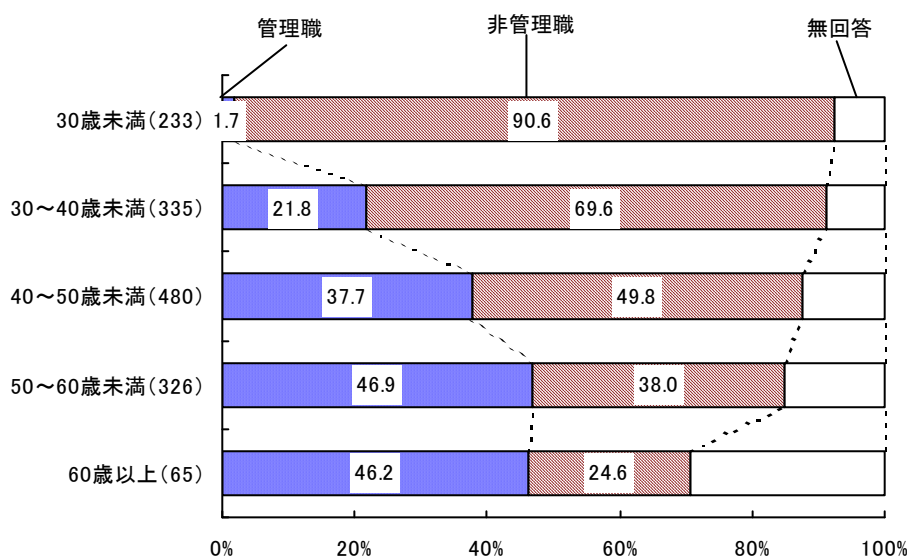
■ 看護師

図-11 看護師における職位(性別)



看護師に限って職位の状況を性別にみると、「管理職」の割合は、男性が女性を6ポイント近く上回っている。

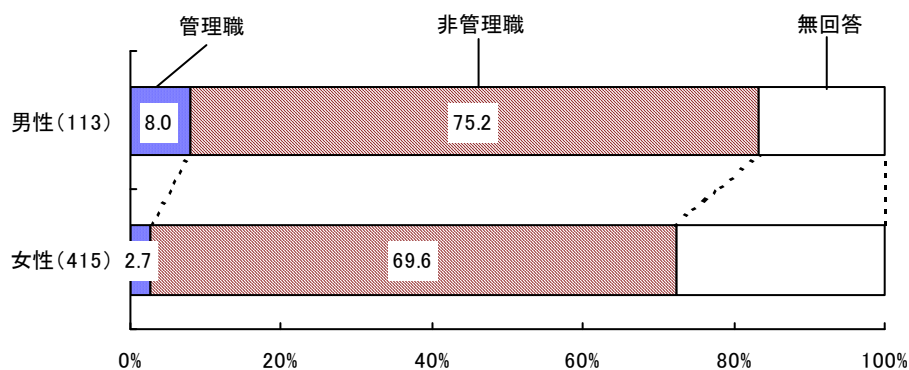
図-12 看護師における職位(年齢別)



同様に年齢別にみると、50歳以上の高年層では、ほぼ半数が「管理職」に就いている。また、30歳代でも2割以上が「管理職」に就いている。

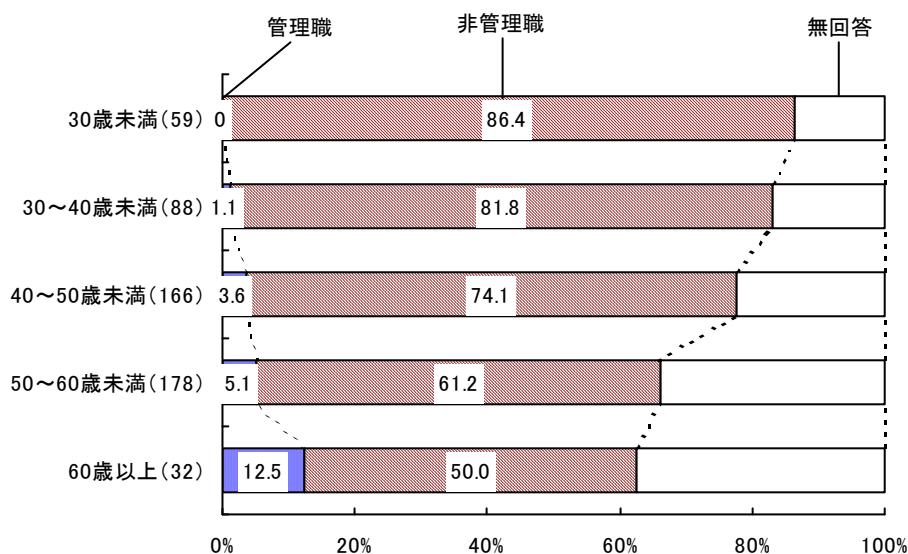
■ 准看護師

図-13 准看護師における職位(性別)



続いて准看護師に限って職位の状況を性別にみると、「管理職」の割合は、男性が女性を5ポイント程度上回っている。

図-14 准看護師における職位(年齢別)

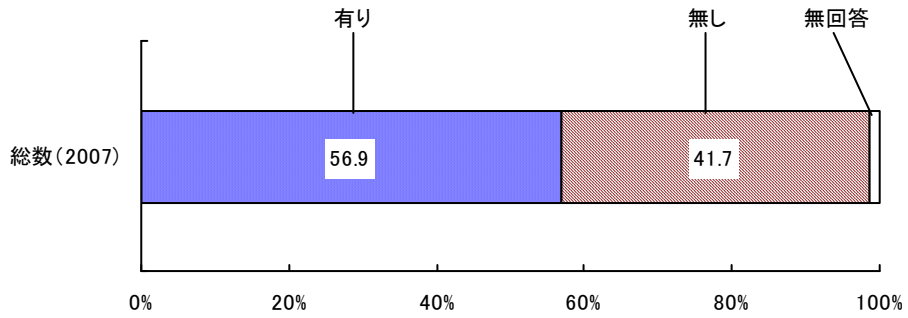


同様に年齢別にみると、「管理職」の割合が最も高い60歳以上の高年層でも、同割合が12.5%にとどまっており、准看護師は、年齢を重ねてもほとんどが「管理職」に就いていない状況が窺われる。

また、看護師では30歳代の「管理職」の割合が2割以上を占めていたが、准看護師では1.1%にすぎず、職位の面において、看護師と准看護師で大きな差がある。

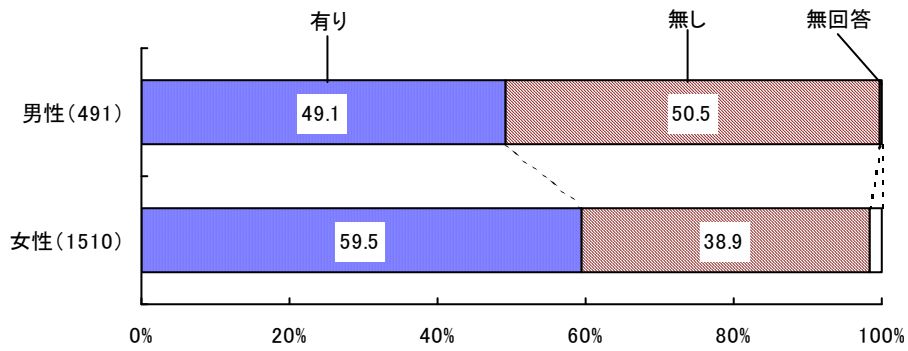
4) 転職経験

図-15 転職経験



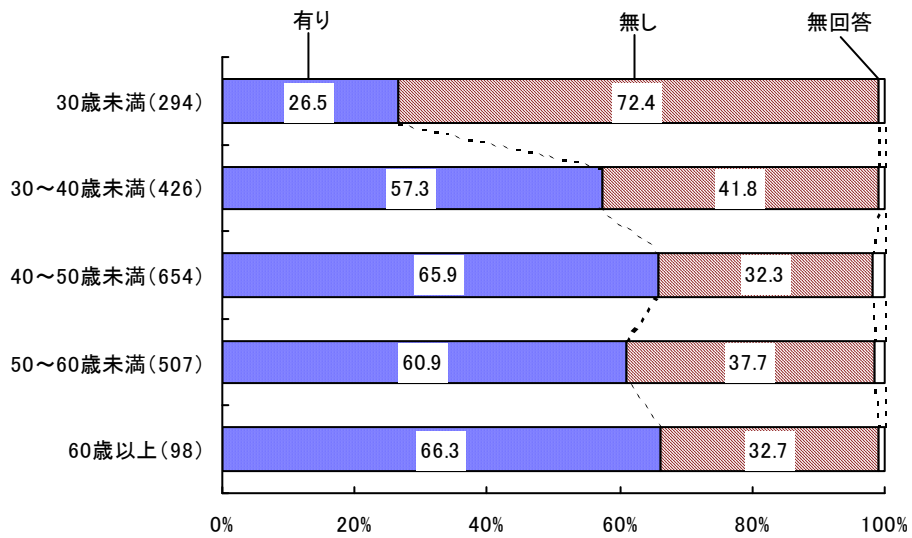
転職経験について調査したところ、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は56.9%を占めており、半数以上が転職経験を有している。

図-16 転職経験(性別)



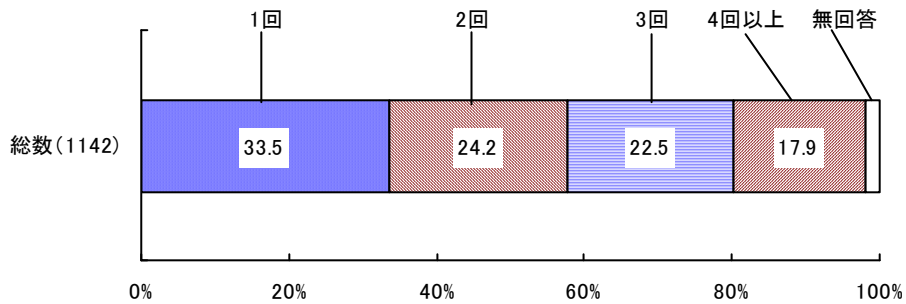
転職経験の状況を性別にみると、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は、女性が男性を10ポイント以上上回っている。

図-17 転職経験(年齢別)



転職経験の状況を年齢別にみると、30歳代で「有り」と回答した会員の割合が急増している。これは、協会が昨年度に実施した「離職者を対象とした調査」の結果と一致している。

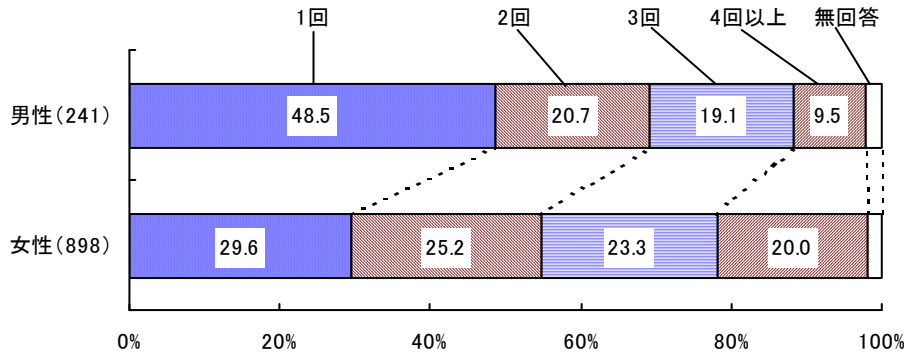
図-18 転職回数



続いて、転職経験がある1,142名の会員に対して、転職した回数について調査したところ、会員1人当たりの平均転職回数は2.4回である。

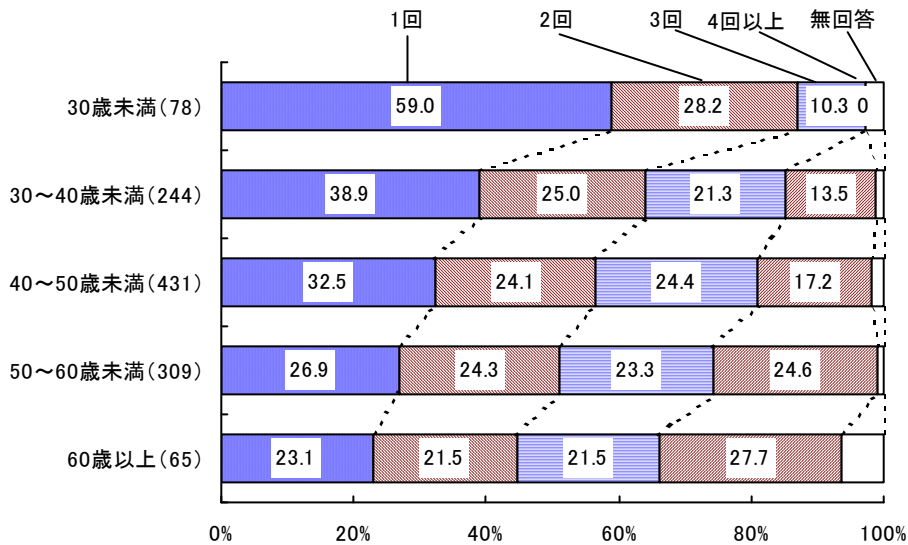
これをカテゴリー別にみると、2回以上の複数回の転職経験がある人の割合が64.6%を占めており、転職経験者の大半が複数回の転職を経験しているといえる。

図-19 転職回数(性別)



転職回数の状況を性別にみると、複数回数の転職を経験している会員の割合は、女性が男性を20ポイント近く上回っている。

図-20 転職回数(年齢別)

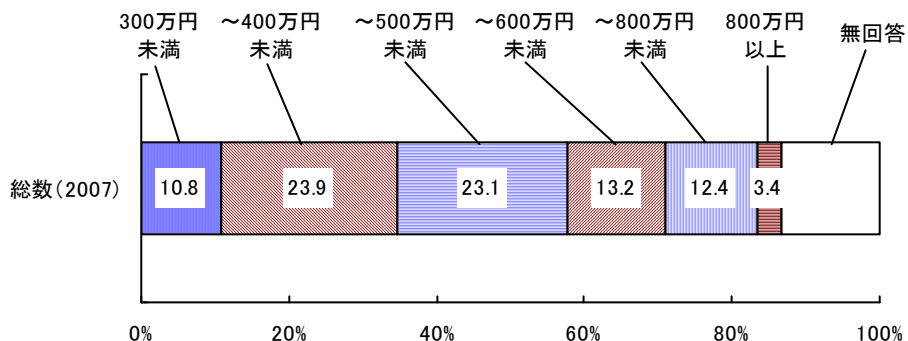


転職回数の状況を年齢別にみると、60歳以上の高齢層で2回以上の複数回の転職経験がある人の割合が70.7%を占めており、大半が複数回の転職を経験しているといえる。

また、2回以上の複数回の転職経験がある人の割合は、30歳未満から30歳代にかけて20ポイント程度増えており、特に「3回」「4回以上」の割合が急増している。

5) 年収

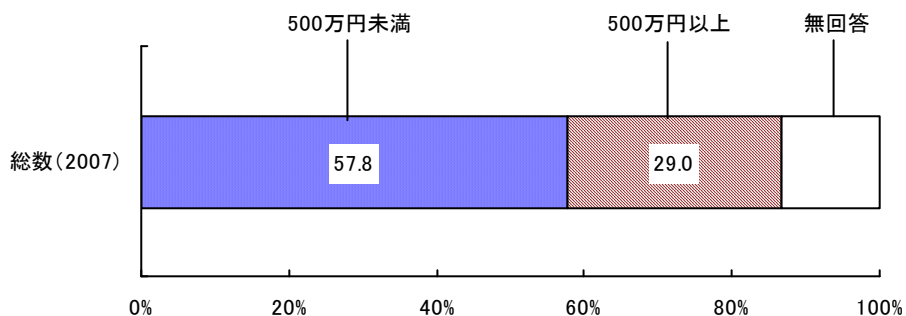
図-21 年収



年収について調査したところ、「300～400万円未満」の年収を得ている会員の割合が23.9%、「400～500万円未満」が23.1%であり、半数近くの会員が、400万円前後の年収を得ているとみられる。

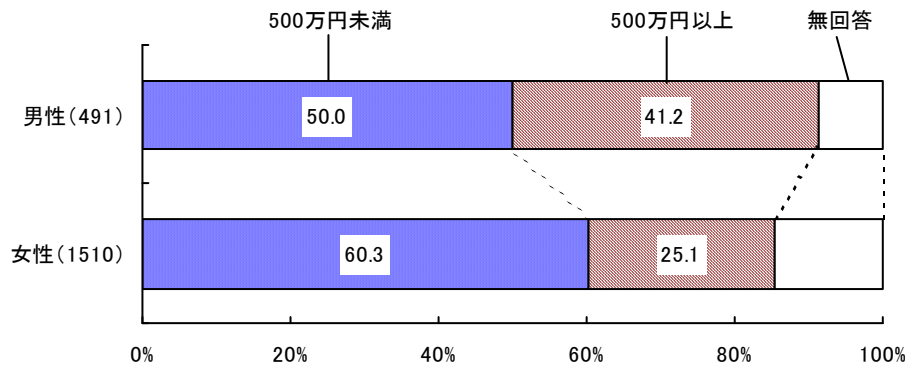
一方、600万円以上の年収を得ている会員の割合は15.8%であり、「800万円以上」に限ってみると3.4%にすぎない。

図-22 年収



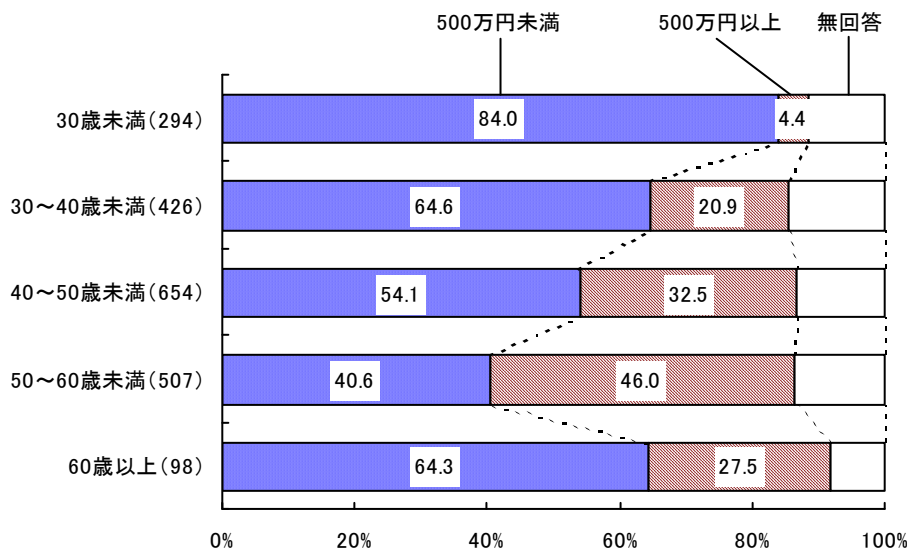
年収額について500万円を境に区切って分析すると、「500万円未満」の会員の割合が6割近くを占めている。

図-23 年 収(性別)



年収の状況を性別にみると、「500万円以上」の年収を得ている会員の割合は、男性が女性を16ポイント程度上回っている。

図-24 年 収(年齢別)

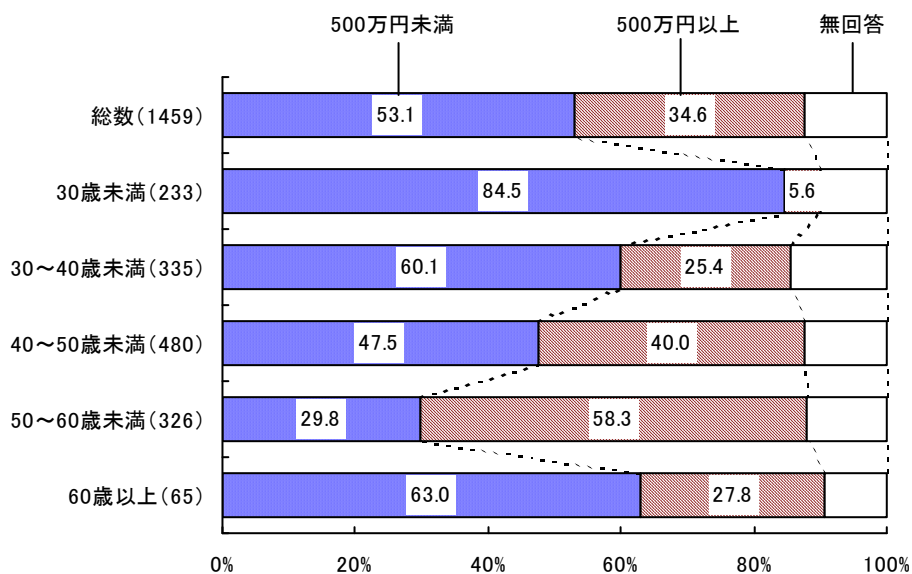


年収の状況を年齢別にみると、30歳未満の若年層では、「500万円未満」の年収を得ている会員の割合が84.0%を占めている。

年齢層が高くなるほど、「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高くなり、「50~60歳未満」になると同割合が「500万円未満」のそれを上回る。

ただ、60歳以上になると、「500万円未満」の割合が64.3%を占め、年収が低下している。これは、60歳を過ぎて定年後の再雇用の会員が多くなることが影響しているものと推察される。

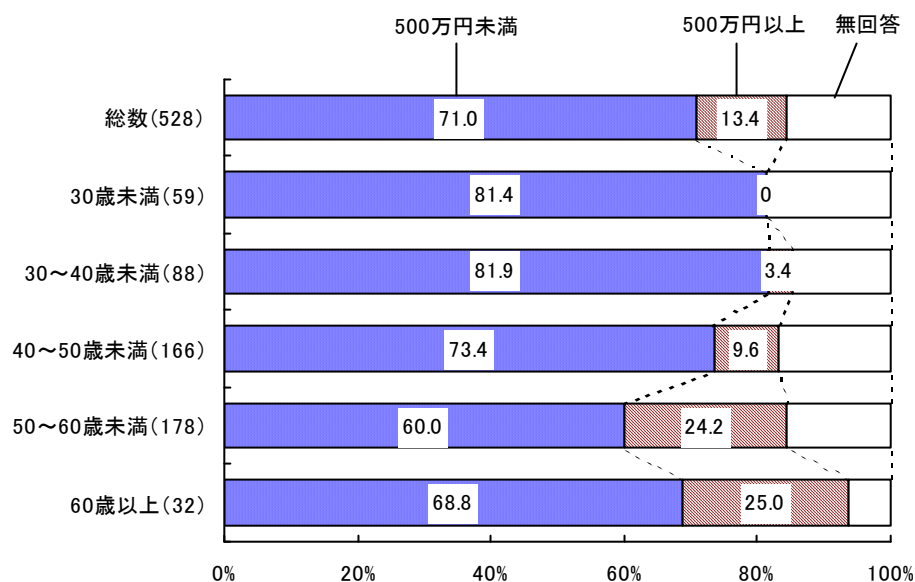
図-25 看護師の年収(年齢別)



次に看護師に限って年収の状況を見ると、総数では、「500万円未満」が53.1%、「500万円以上」が34.6%である。

これを年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高くなり、「50～60歳未満」になると同割合が6割近くを占めている。

図-26 准看護師の年収(年齢別)

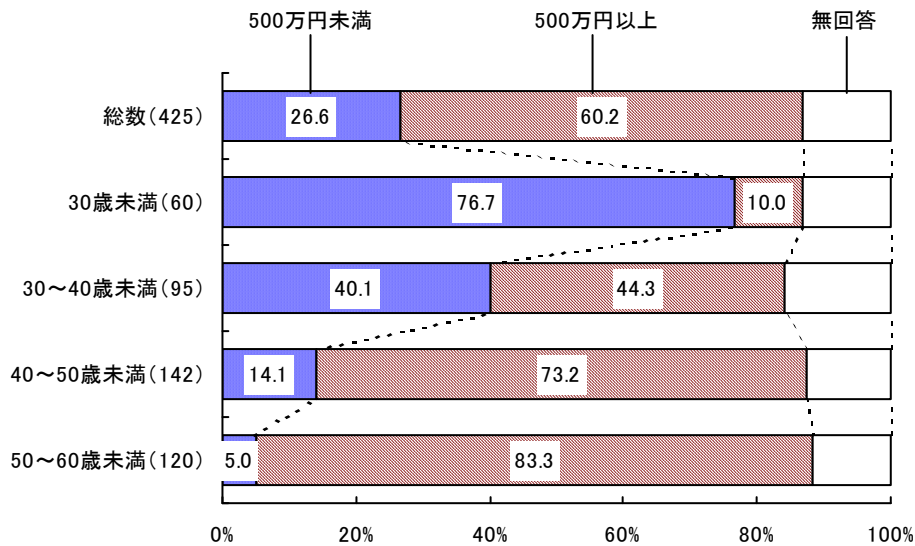


同様に准看護師に限って年収の状況を見ると、総数では「500万円未満」が71.0%、

「500万円以上」が13.4%である。

これを年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高くなるものの、50歳代になっても同割合が25%に満たない状況であり、看護師の同割合（58.3%）と比較すると大きな差がみられる。

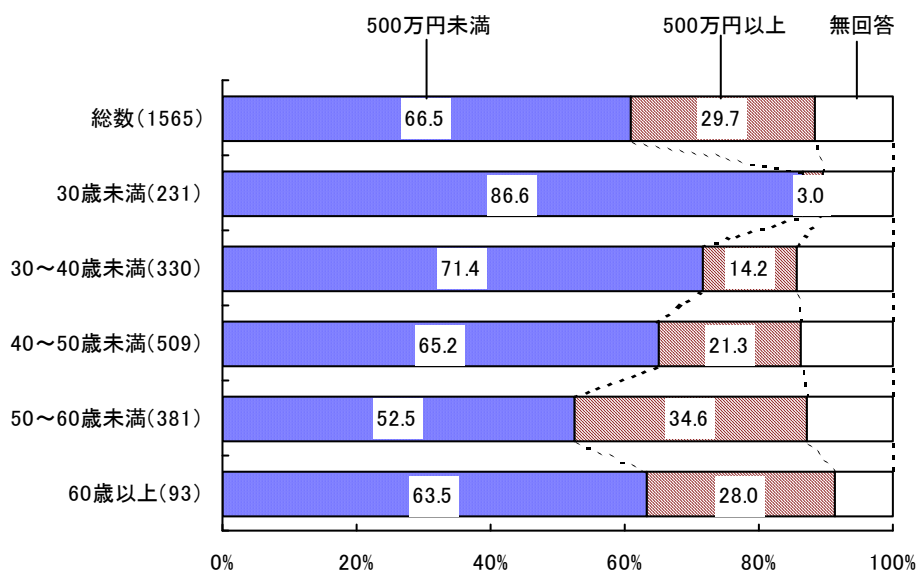
図-27 国・公的機関の年収(年齢別)



続いて、国・公的機関に勤務している会員に限って年収の状況を見ると、総数では、「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が60.2%を占めている。

これを年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が急速に高まり、50歳代になると同割合が83.3%を占めている。国・公的機関では、年齢層が高まると共に、着実に急速に年収が高まる傾向がみられる。

図-28 民間の年収(年齢別)

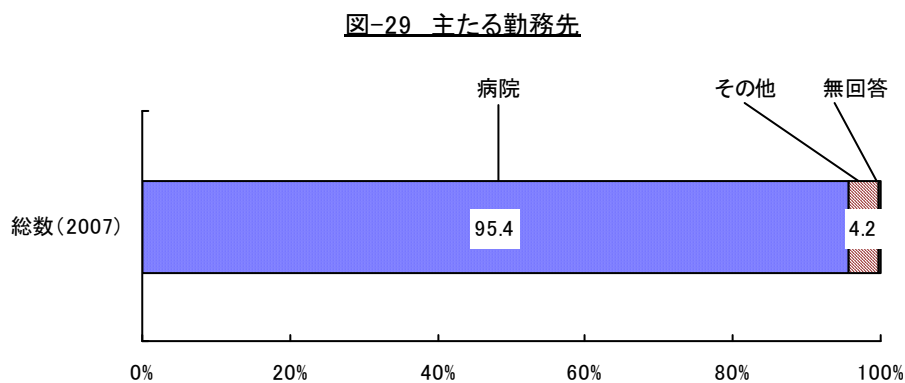


一方、民間に勤務している会員に限って年収の状況をみると、総数では、「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が29.7%であり、国・公的機関のそれ(60.2%)を大きく下回っている。

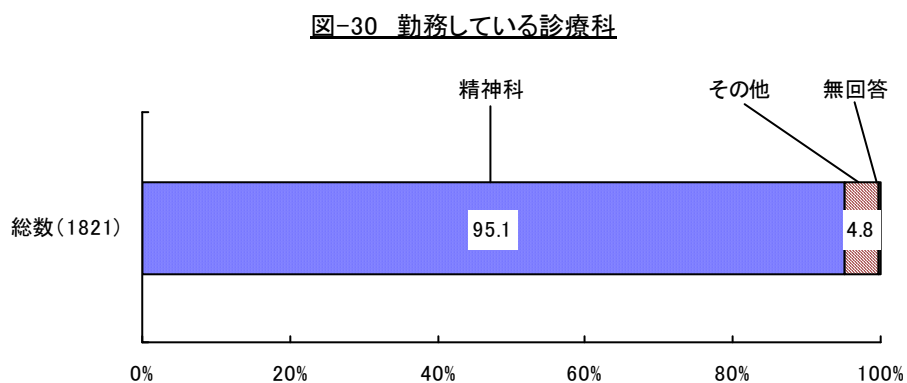
これを年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が急速に高まるものの、50歳代になっても同割合が34.6%であり、やはり国・公的機関のそれ(83.3%)を大きく下回っている。民間と国・公的機関で、年齢層による年収の状況に大きな差があるといえる。

§ 2. 勤務先について

1) 主たる勤務先



主たる勤務先について調査したところ、「病院」の割合が 95.4%を占めており、ほとんどの会員が「病院」を主たる勤務先としている。

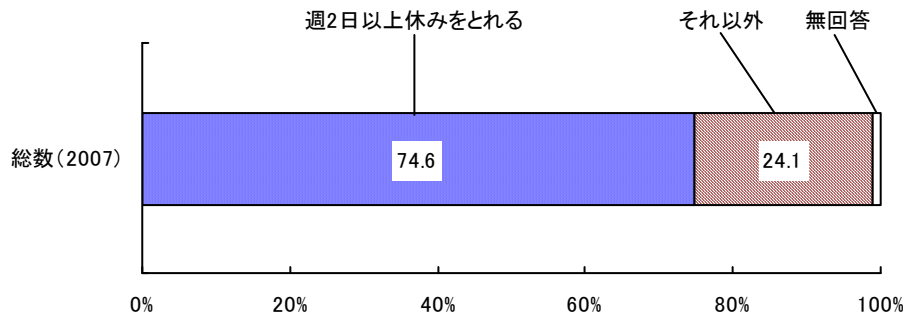


また、病院を主たる勤務先としている 1,821 名の会員に対して、勤務している診療科について調査したところ、「精神科」の割合が 95.1%を占めており、病院勤務者のほとんどが「精神科」に勤務している。

2) 勤務形態

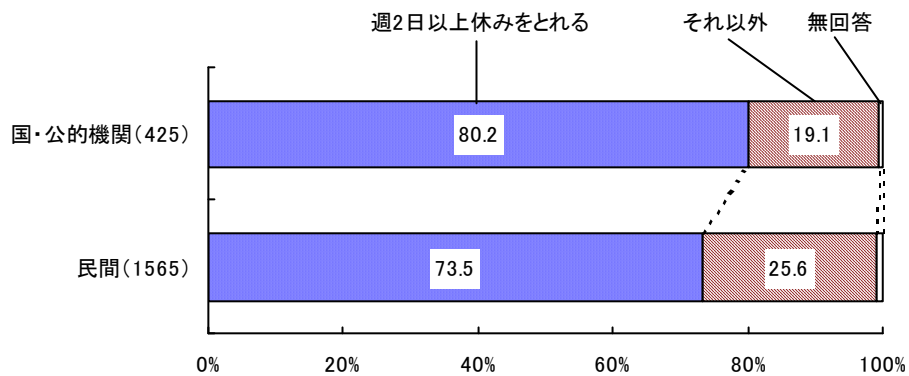
①週休形態

図-31 週休形態



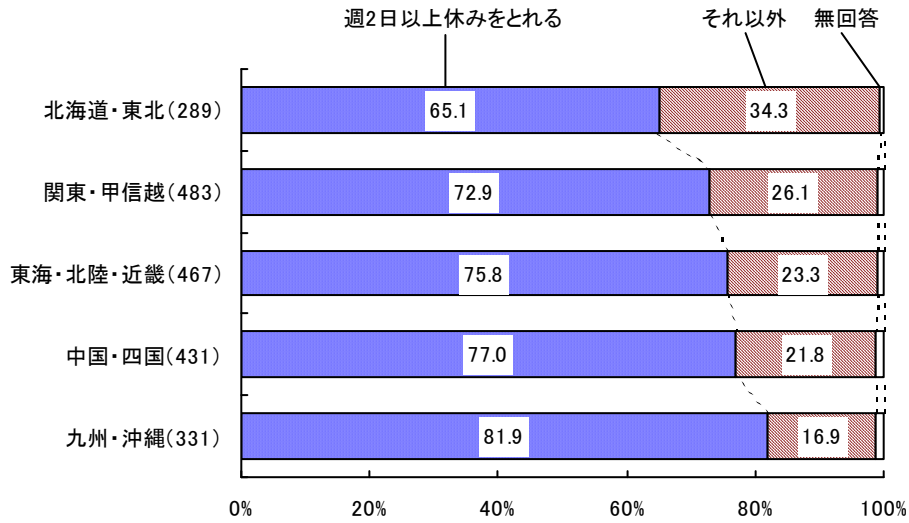
勤務先の週休形態について調査したところ、「週2日以上休みをとれる」と回答した会員の割合が74.6%を占めている。

図-32 週休形態(設置主体別)



週休形態の状況を設置主体別にみると、「週2日以上休みをとれる」と回答した会員の割合は、国・公的機関が民間を7ポイント近く上回っている。

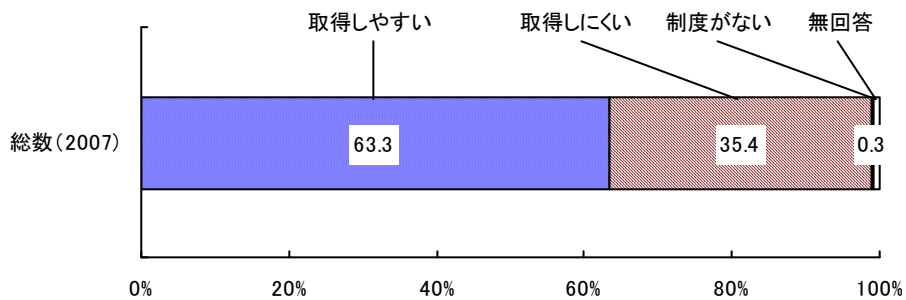
図-33 週休形態(地域ブロック別)



また、週休形態を地域ブロック別にみると、「週2日以上休みをとれる」と回答した会員の割合は、東側地域で低く、西側地域で高い傾向がみられる。

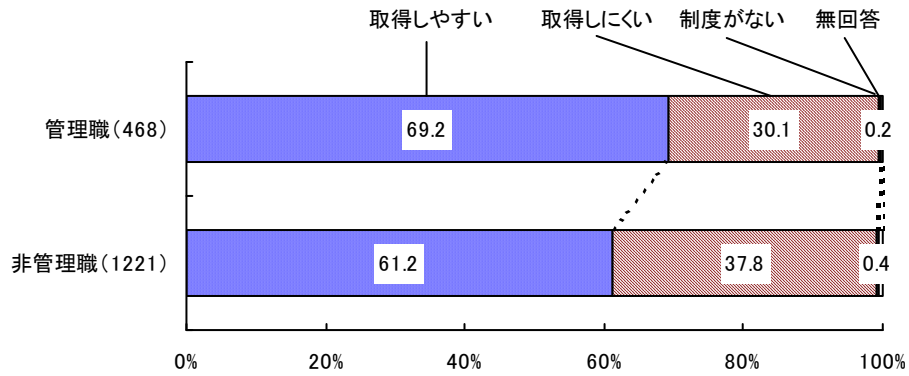
②有給休暇

図-34 有給休暇



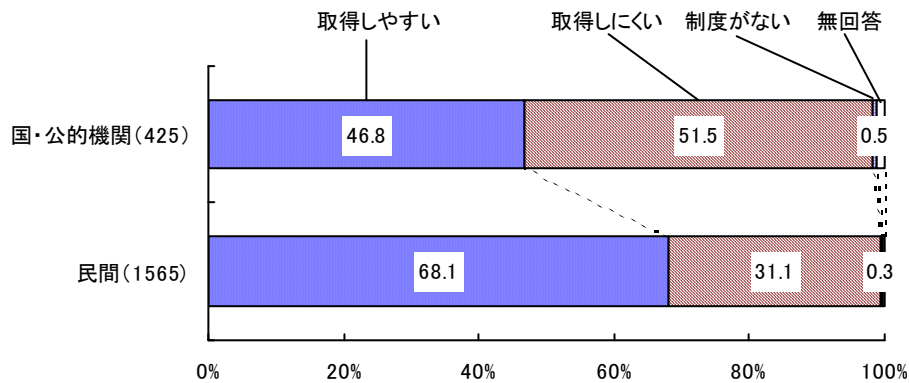
勤務先において有給休暇を取得しやすいか否かについて調査したところ、「取得しやすい」と回答した会員の割合は63.3%である。

図-35 有給休暇(職位別)



これを職位別にみると、「取得しやすい」と回答した会員の割合は、管理職が非管理職を8ポイント上回っている。

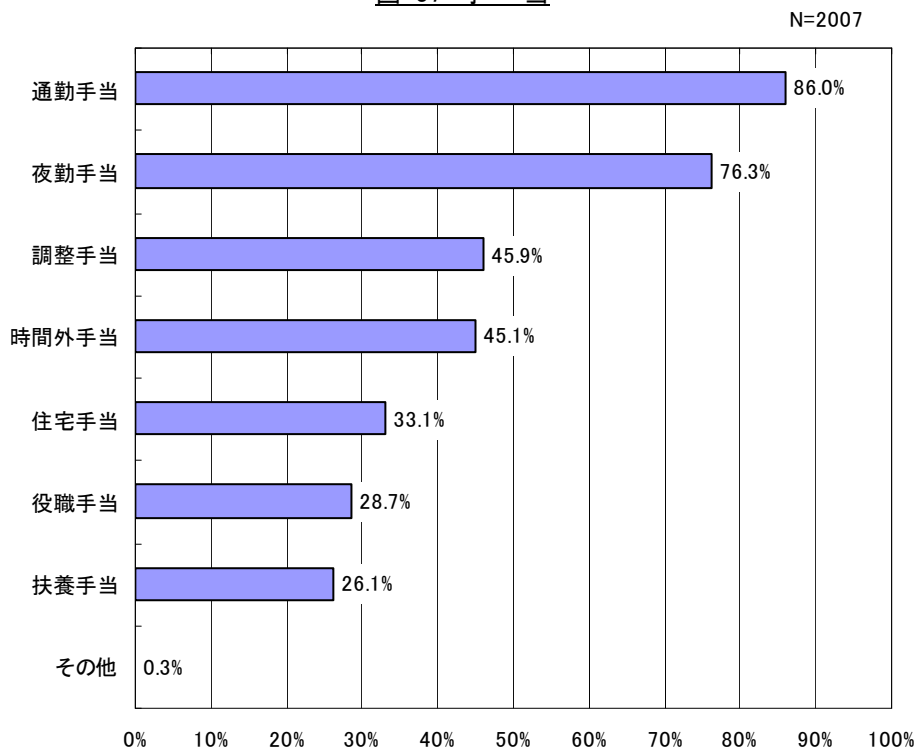
図-36 有給休暇(設置主体別)



次に勤務先の設置主体別にみると、「取得しやすい」と回答した会員の割合は、民間が68.1%を占めているのに対して、国・公的機関は46.8%と半数を下回っている。国・公的機関と民間で、有給休暇を取得しやすい施設の割合に大きな差があるといえる。

③手当

図-37 手 当



勤務先から支給を受けている手当について調査したところ、「通勤手当」が 86.0%、「夜勤手当」が 76.3%であり、これらの手当についてはほとんどの会員が支給を受けているとみられる。

※本項目は対象の属性により支給されないものもあり、この割合が制度の有無を表しているものではない。

表-1 手 当 (性別)

	通勤手当	夜勤手当	調整手当	時間外手当	住宅手当	役職手当	扶養手当
男性 N=491	428 87.2%	405 82.5%	242 49.3%	259 52.7%	248 50.5%	179 36.5%	303 61.7%
女性 N=1510	1293 85.6%	1123 74.4%	677 44.8%	646 42.8%	416 27.5%	394 26.1%	219 14.5%

これを性別にみると、上記の表のいずれの手当についても、支給を受けている会員の割合は、男性が女性を大きく上回っている。手当によっては、男性が世帯主になっているケースが多いことが支給状況に影響していると考えられる。

表-2 手 当（年齢別）

	通勤手当	夜勤手当	調整手当	時間外 手 当	住宅手当	役職手当	扶養手当
30歳未満 N=294	241 82.0%	267 90.8%	104 35.4%	151 51.4%	94 32.0%	25 8.5%	33 11.2%
30歳代 N=426	379 89.0%	356 83.6%	198 46.5%	207 48.6%	165 38.7%	95 22.3%	142 33.3%
40歳代 N=654	572 87.5%	486 74.3%	323 49.4%	307 46.9%	206 31.5%	230 35.2%	219 33.5%
50歳代 N=507	421 83.0%	355 70.0%	238 46.9%	201 39.6%	166 32.7%	180 35.5%	108 21.3%
60歳以上 N=98	87 88.8%	46 46.9%	41 41.8%	28 28.6%	27 27.6%	38 38.8%	10 10.2%

これを年齢別にみると、「通勤手当」については、年齢層にかかわらず、ほとんどの会員が支給を受けている状況が窺われる。

ところで、「時間外手当」は、若年層で支給率が高くなっている。これは、年齢が上がって管理職になると、「時間外手当」の代わりに「役職手当」が支給されるようになるからと推察される。

表-3 手 当（設置主体別）

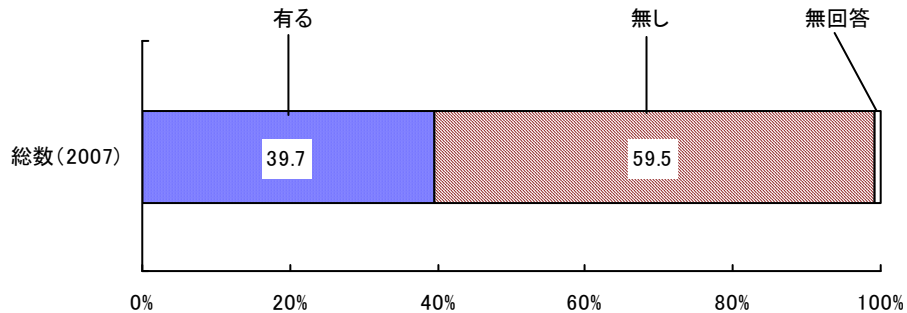
	通勤手当	夜勤手当	調整手当	時間外 手 当	住宅手当	役職手当	扶養手当
国・公的機関 N=425	350 82.4%	352 82.8%	290 68.2%	303 71.3%	170 40.0%	37 8.7%	350 82.4%
民間 N=1565	1365 87.2%	1170 74.8%	630 40.3%	600 38.3%	489 31.2%	536 34.2%	1365 87.2%

設置主体別にみると、「調整手当」「時間外手当」の支給を受けている会員の割合は、国・公的機関が民間を大きく上回っている。

一方、「役職手当」については、民間が国・公的機関を大きく上回っている。設置主体によって、手当の支給状況に大きな差がみられる。

④ 託児施設の有無

図-38 託児施設の有無



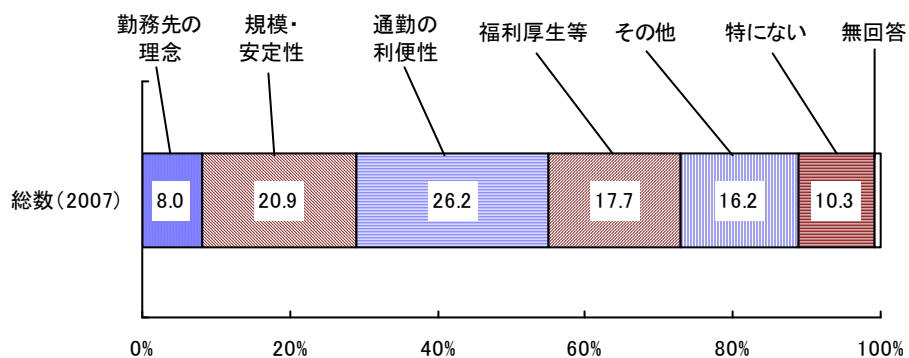
勤務先の託児施設の整備状況について調査したところ、託児施設が「有る」と回答した会員の割合は39.7%である。

また、勤務先の託児施設の整備状況を設置主体別に分析したが、託児施設が「有る」と回答した会員の割合は、どちらも40%前後であり、設置主体による差はみられなかった。

3) 勤務先への満足度

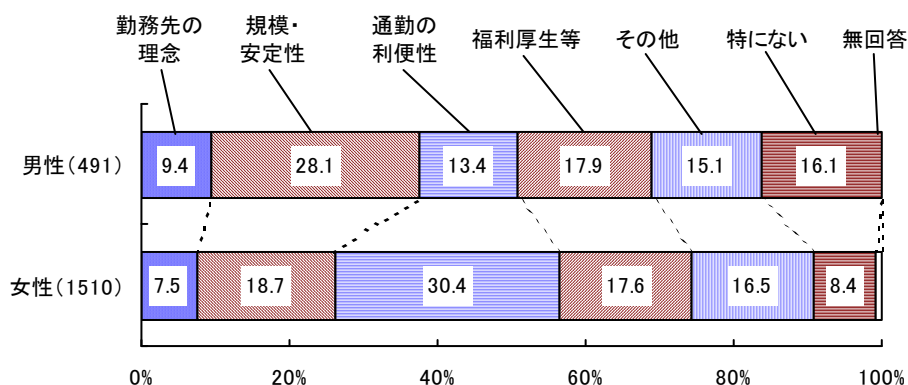
①現在の勤務先を選んだ理由

図-39 勤務先を選んだ理由



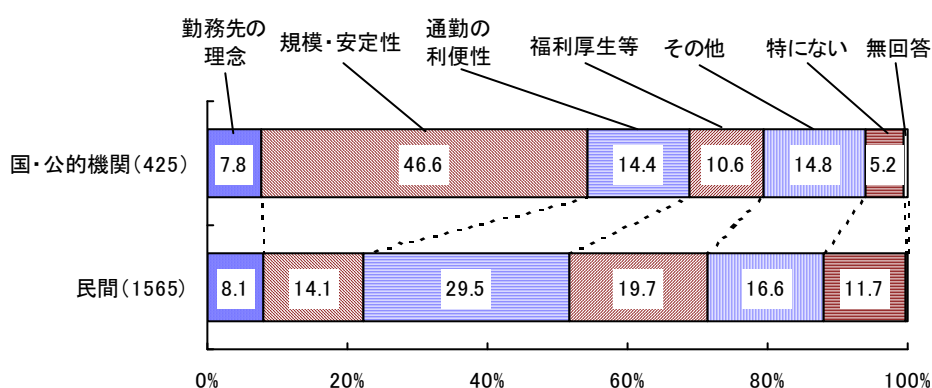
現在の勤務先を選んだ理由（最も大きな理由）について調査したところ、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が26.2%で最も高く、これに「規模・安定性」(20.9%)、「福利厚生等」(17.7%)・・・と続いている。

図-40 勤務先を選んだ理由(性別)



これを性別にみると、男性は、「規模・安定性」を挙げている会員の割合が最も高いのに対して、女性は、「通勤の利便性」を挙げている会員の割合が最も高くなっている。

図-41 勤務先を選んだ理由(設置主体別)

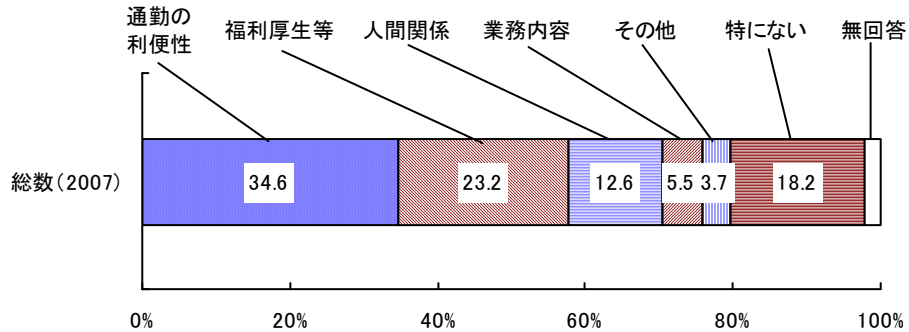


設置主体別にみると、国・公的機関は、「規模・安定性」を挙げている会員の割合が46.6%を占めており、突出して高くなっている。

一方、民間は、「通勤の利便性」を挙げている会員の割合が最も高くなっている。

②勤務先で満足している項目

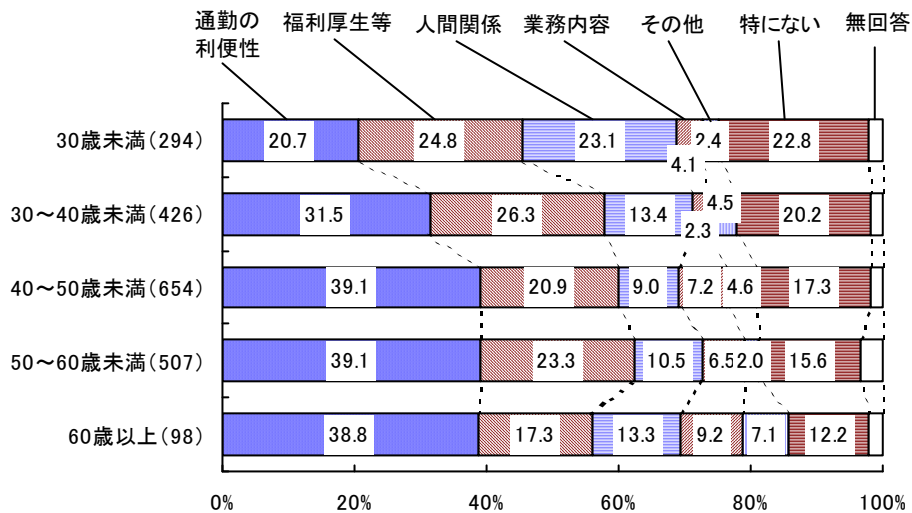
図-42 勤務先で満足している項目



通勤先で最も満足している項目について調査したところ、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が 34.6%で最も高く、これに「福利厚生等」(23.2%)、「人間関係」(12.6%)・・・と続いている。

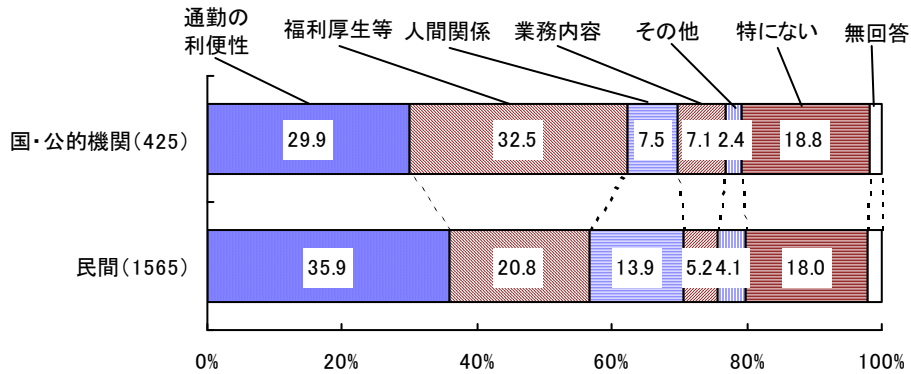
一方、「業務内容」を挙げた会員の割合は 5.5%にとどまっている。

図-43 勤務先で満足している項目(年齢別)



年齢別にみると、若年層では、「福利厚生等」「人間関係」を挙げた会員の割合が高く、高齢層では、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が高い。

図-44 勤務先で満足している項目(設置主体別)

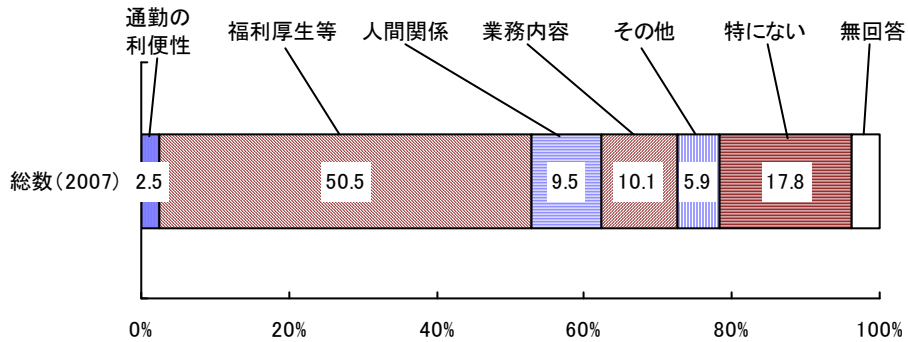


設置主体別にみると、国・公的機関では、「福利厚生等」を挙げた会員の割合が32.5%で最も高くなっている。

一方、民間では、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が35.9%で最も高い。また、民間は、「業務内容」を挙げた会員の割合が国・公的機関よりも高くなっている。

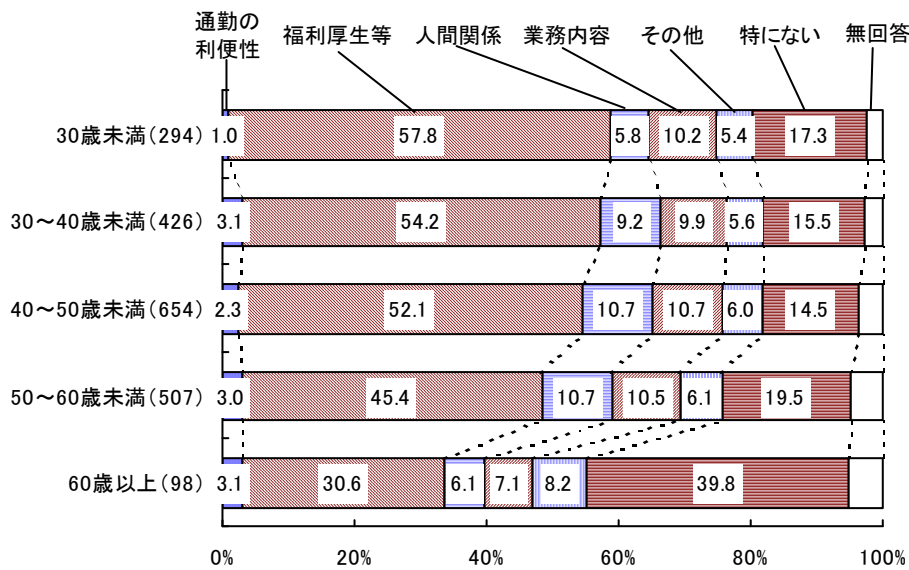
③勤務先で不満に感じている項目

図-45 勤務先で不満に感じている項目



通勤先で最も不満に感じている項目について調査したところ、「福利厚生等」を挙げた会員の割合が50.5%で半数以上を占めている。

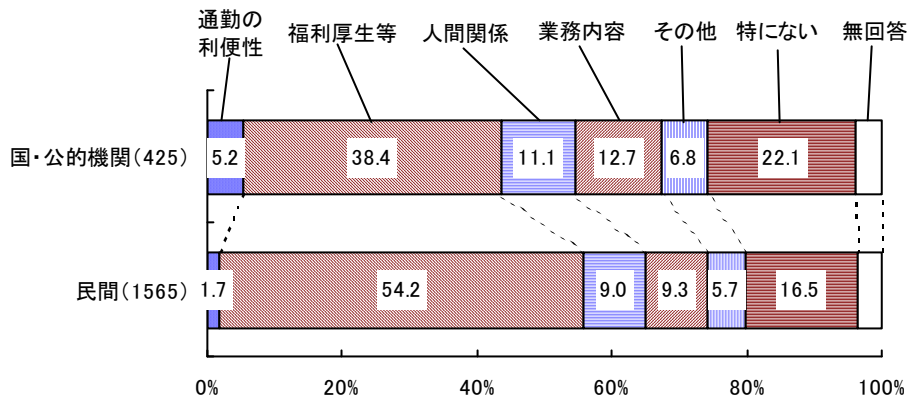
図-46 勤務先で不満に感じている項目(年齢別)



年齢別にみると、「福利厚生等」と回答した会員の割合は、年齢が高くなるほど低下する傾向がみられる。

また、60歳以上の高齢層では「特にない」との回答が39.8%を占め、高齢層では勤務先に不満がないと感じている人の割合が高くなっている。

図-47 勤務先で不満に感じている項目(設置主体別)



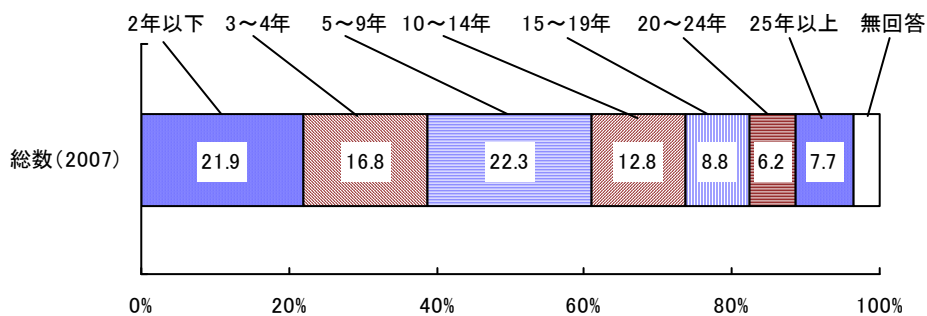
設置主体別にみると、国・公的機関、民間のどちらも「福利厚生等」を挙げた会員の割合が最も高くなっている。

ただ、民間では、同割合が54.2%と半数を超えており、国・公的機関よりも15ポイント以上高くなっている。

§ 3. 会員について

1) 会員期間

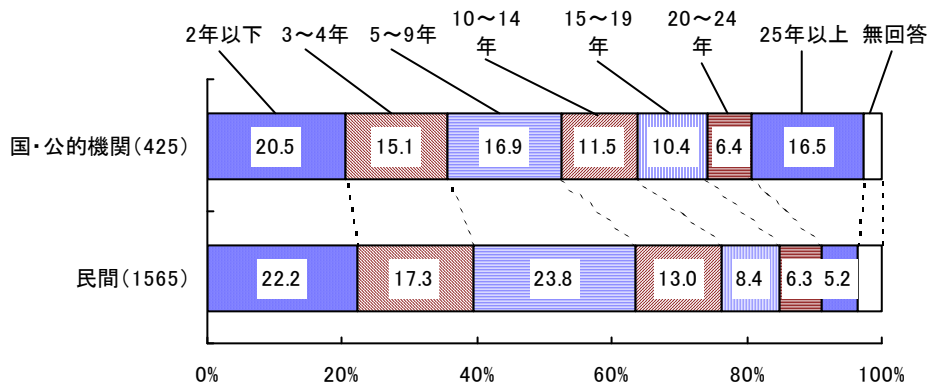
図-48 会員期間



会員期間について調査したところ、会員1人当たりの平均期間は9.2年である。

これをカテゴリー別にみると、会員期間が5年未満のフレッシュ会員が38.7%、同5~20年未満の中堅会員が43.9%、同20年以上のベテラン会員が13.9%となっている。

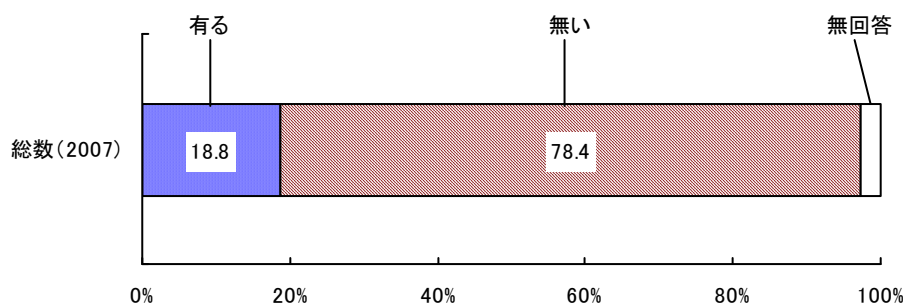
図-49 会員期間(設置主体別)



設置主体別にみると、国・公的機関は、民間に比べて会員期間が20年以上のベテラン会員の割合が高くなっている。特に25年以上の会員が16.5%を占め、民間のそれよりも15ポイント以上高くなっている。

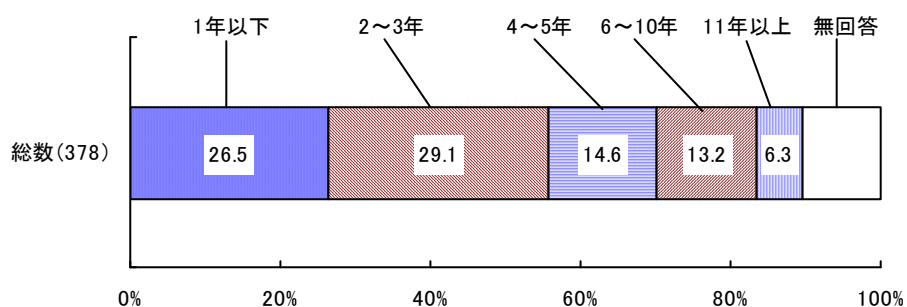
2) 会員を辞めた経験

図-50 会員を辞めた経験



会員を辞めた経験について調査したところ、辞めた経験が「有る」と回答した会員の割合は18.8%である。

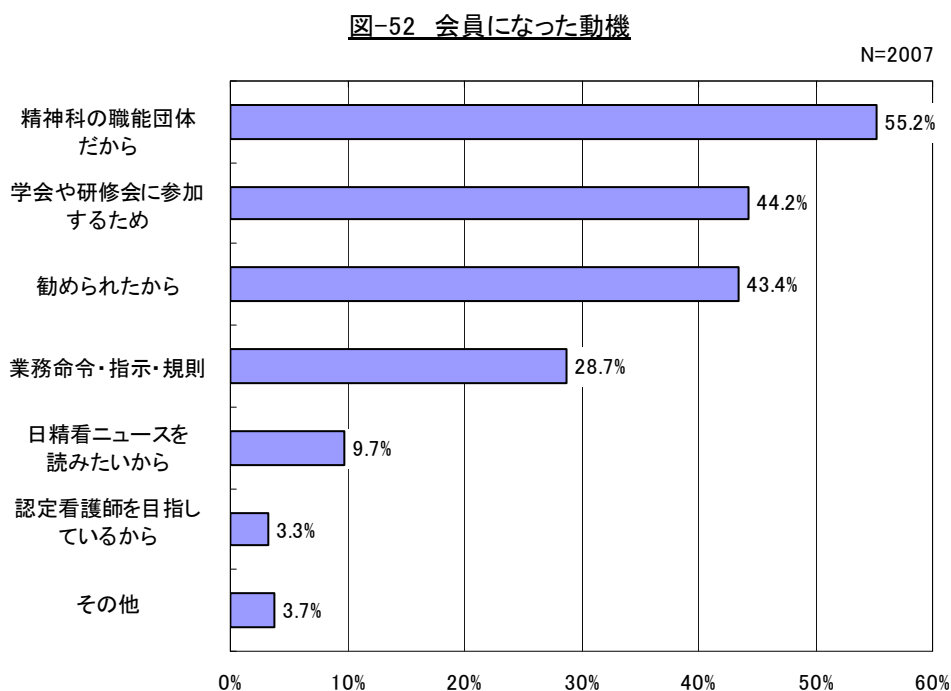
図-51 辞めた期間



会員を辞めた経験がある378名の会員に対して、会員を辞めた期間について調査したところ、会員1人当たりの平均期間は4.2年である。

これをカテゴリー別にみると、半数以上の会員が3年以下と短期間である。一方、「11年以上」と長期にわたって辞めていた会員は6.3%である。

3) 会員になった動機



会員になった動機について調査したところ、「精神科の職能団体だから」との動機を挙げた会員の割合が 55.2%で最も高く、これに「学会や研修会に参加するため」(44.2%)、「勧められたから」(43.4%)、「業務命令・指示・規則」(28.7%)・・・と続いている。

表-4 会員になった動機（年齢別）

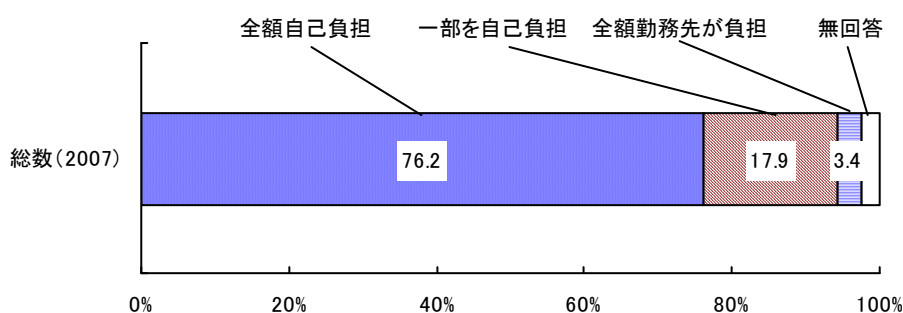
	精神科の職能団体だから	学会や研修会に参加するため	勧められたから	業務命令・指示・規則	日精看ニュースを読みたいから	認定看護師を目指しているから	その他
30歳未満 N=294	122 41.5%	101 34.4%	167 56.8%	90 30.6%	20 6.8%	23 7.8%	8 2.7%
30歳代 N=426	207 48.6%	184 43.2%	201 47.2%	150 35.2%	21 4.9%	16 3.8%	14 3.3%
40歳代 N=654	377 57.6%	308 47.1%	259 39.6%	208 31.8%	58 8.9%	17 2.6%	24 3.7%
50歳代 N=507	327 64.5%	240 47.3%	204 40.2%	110 21.7%	66 13.0%	9 1.8%	21 4.1%
60歳以上 N=98	60 61.2%	43 43.9%	28 28.6%	14 14.3%	23 23.5%	1 1.0%	6 6.1%

これを年齢別にみると、高齢層では、「精神科の職能団体だから」「日精看ニュースを読みたいから」との動機を挙げた会員の割合が高く、若年層では、「勧められたから」「業務命令・指示・規則」との動機を挙げた会員の割合が高くなっている。

高齢層は、能動的な項目を動機としている会員の割合が高いのに比べて、若年層は受け身的な項目を動機としている会員の割合が高く、年齢層によって会員になった動機の違いを感じ方に差があるといえる。

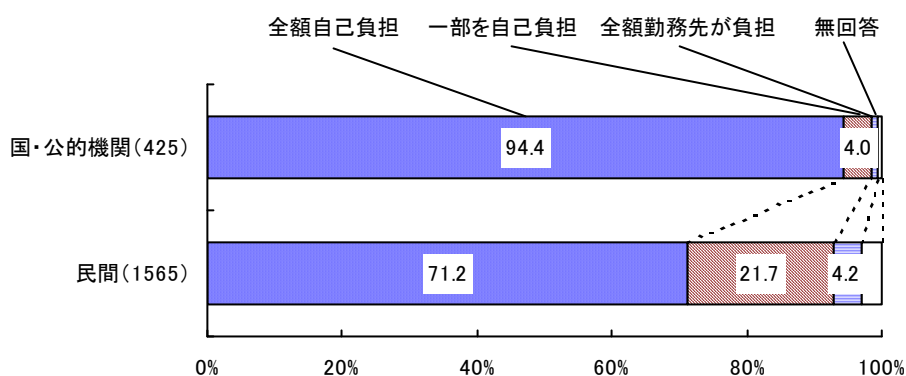
4) 会費の負担状況

図-53 会費の負担状況



会費の負担状況について調査したところ、「全額自己負担」している会員の割合が76.2%を占めている。

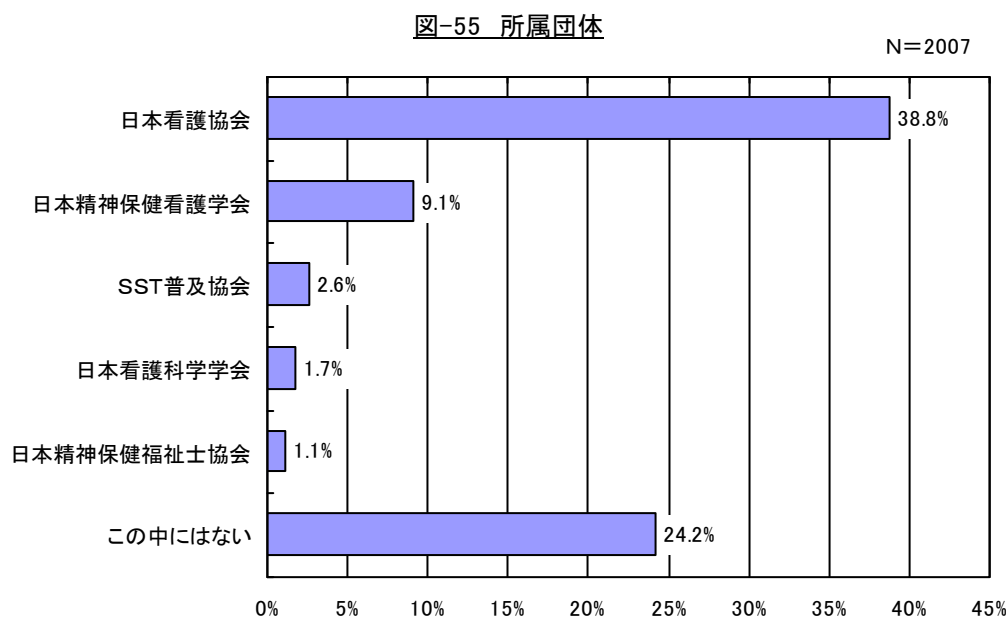
図-54 会費の負担状況(設置主体別)



これを設置主体別にみると、「全額自己負担」している会員の割合は、国・公的機関が民間を20ポイント以上上回っている。

民間は、「一部を自己負担」している会員の割合が21.7%となっている。

5) その他の所属団体



日精看以外に所属している団体名について調査したところ、「日本看護協会」を挙げた会員の割合が 38.8% で突出して高くなっている。

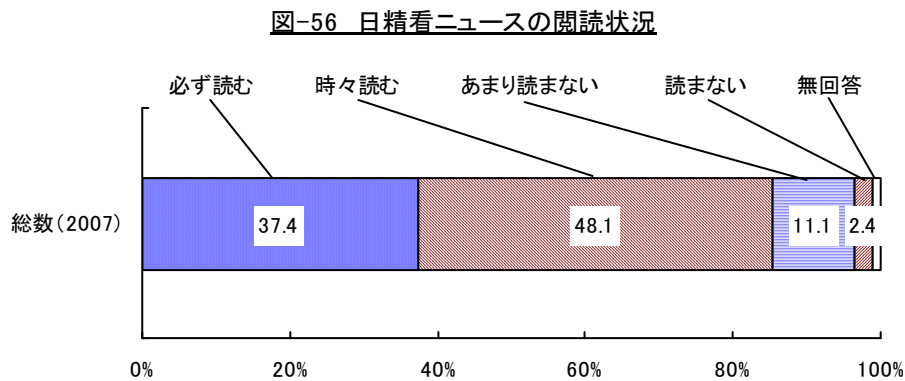
表-5 その他の所属団体（設置主体別）

	日本看護協会	日本精神保健看護学会	SST普及協会	日本看護科学学会	日本精神保健福祉士協会	この中にはない
国・公的機関	268	36	10	14	5	64
N=425	63.1	8.5	2.4	3.3	1.2	15.1
民間	505	146	42	21	18	420
N=1565	32.3	9.3	2.7	1.3	1.2	26.8

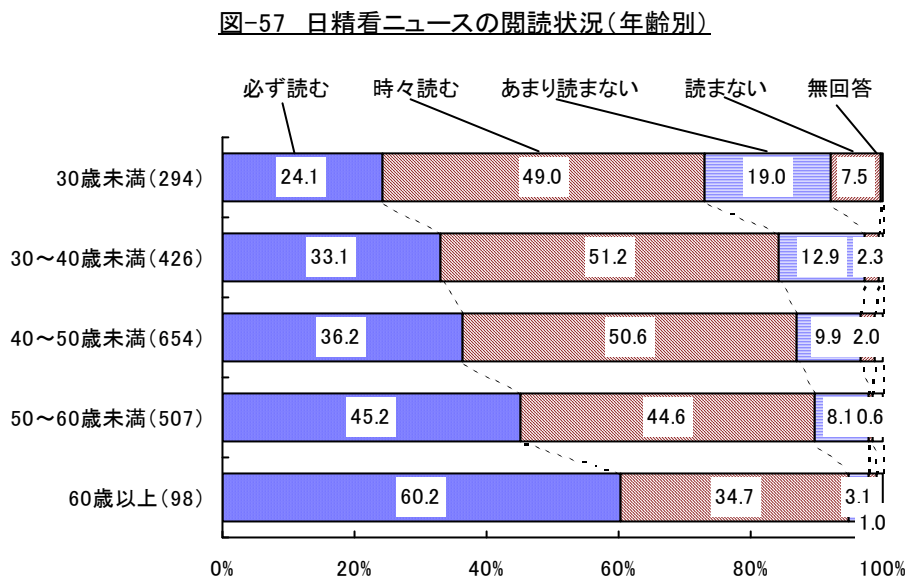
設置主体別にみると、「日本看護協会」を挙げた会員の割合は、国・公的機関が民間を 30 ポイント以上上回っている。

§ 4. 協会について

1) 『日精看ニュース』の閲読状況



『日精看ニュース』の閲読状況について調査したところ、「必ず読む」会員の割合が37.4%である。「時々読む」会員の割合（48.1%）を併せると8割以上が閲読しており、『日精看ニュース』の閲読率は高いとみられる。

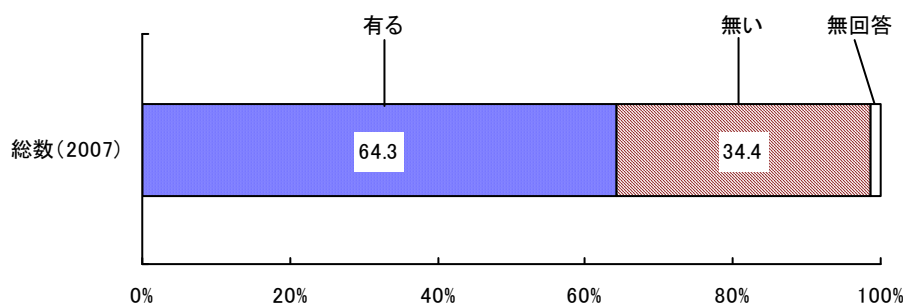


年齢別にみると、高齢になるほど閲読している会員の割合が高まる傾向がみられ、特に60歳以上では、6割を超える会員が「必ず読む」と回答している。

2) 学会と研修会

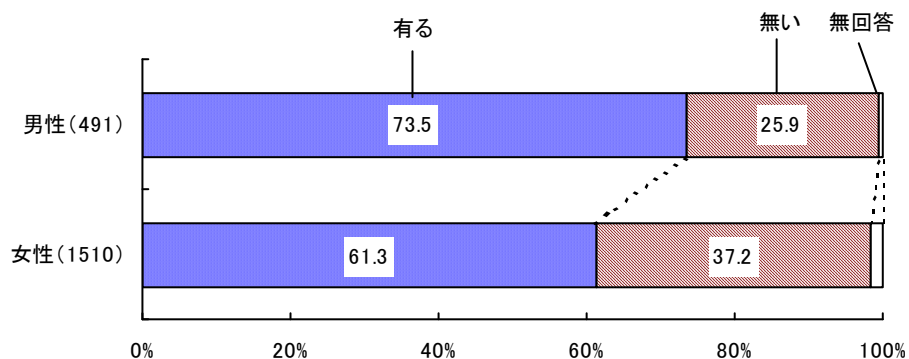
①協会主催の学会

図-58 学会参加経験の有無



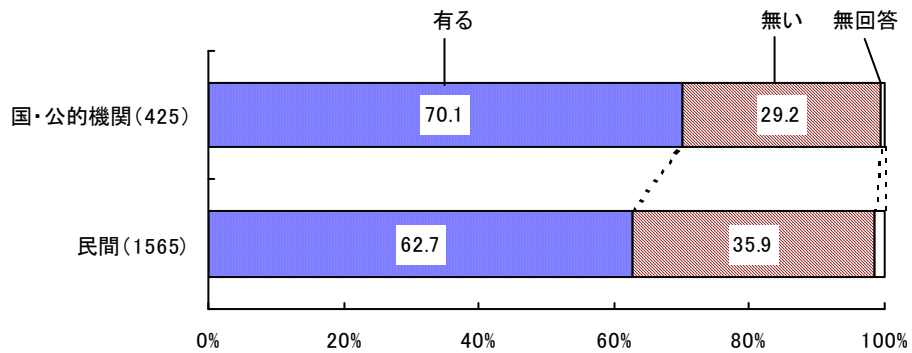
協会主催の学会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は64.3%である。

図-59 学会参加経験の有無(性別)



性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、男性が女性を12ポイント程度上回っている。

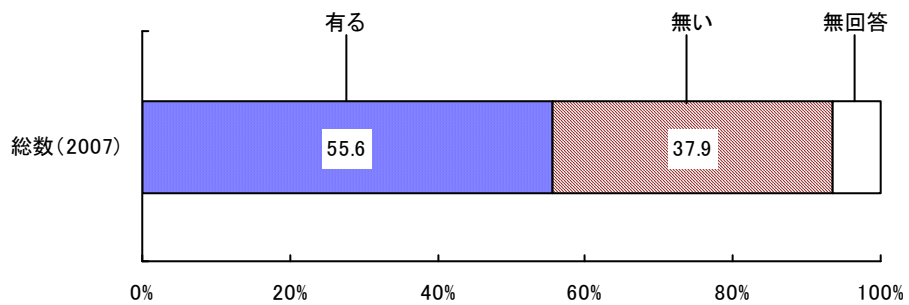
図-60 学会参加経験の有無(設置主体別)



設置主体別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、国・公的機関が民間を7ポイント程度上回っている。

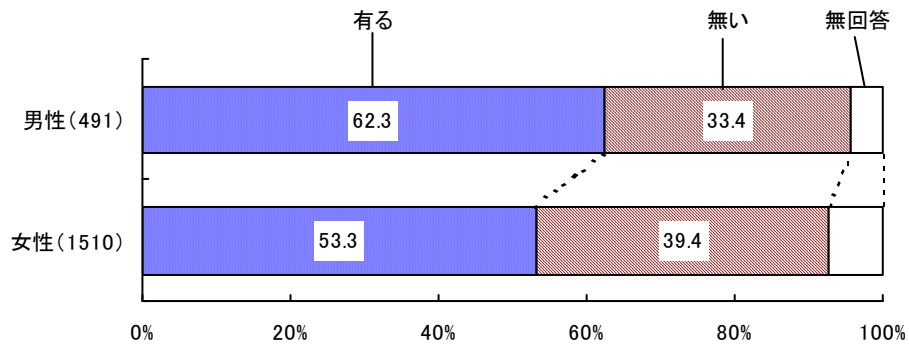
②協会主催の研修会

図-61 協会主催の研修会への参加経験



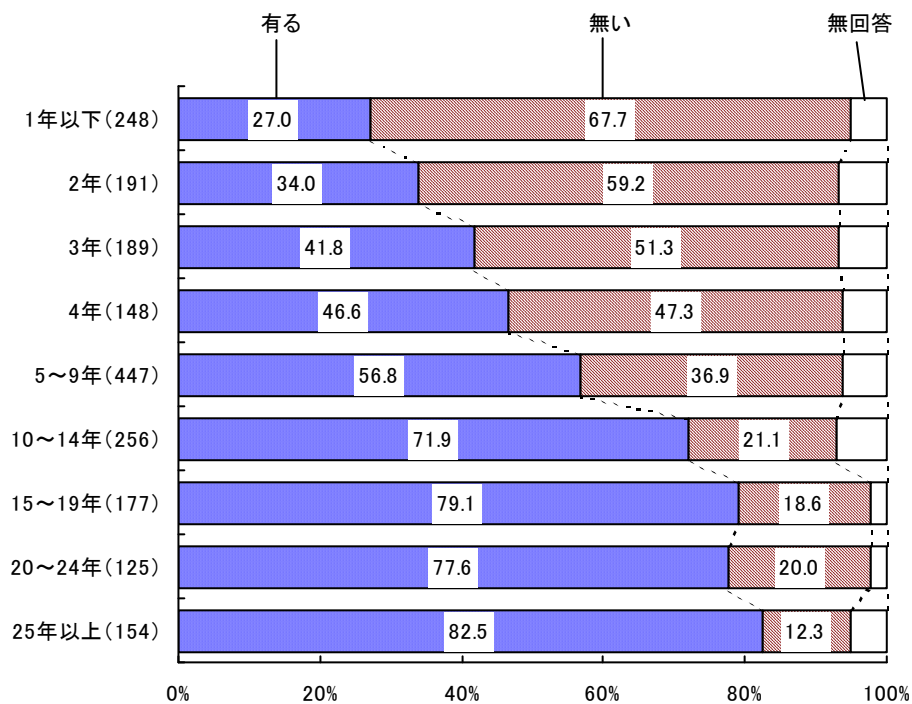
協会主催の研修会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は55.6%である。

図-62 協会主催の研修会への参加経験(性別)



性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、男性が女性を9ポイント上回っている。

図-63 協会主催の研修会への参加経験(会員期間別)

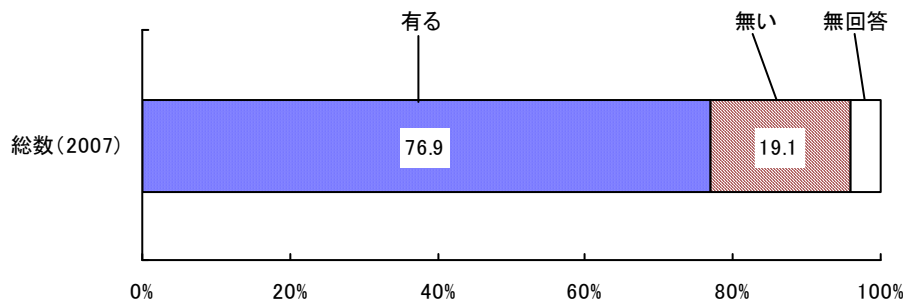


会員期間別にみると、会員期間が長くなるに伴い、着実に参加経験がある会員の割合が増え、「10～14年」で7割を超えている。

会員期間が15年を超えると、いずれも参加経験者の割合が80%前後を占めており、会員期間15年以上の会員のほとんどが参加経験者といえる。

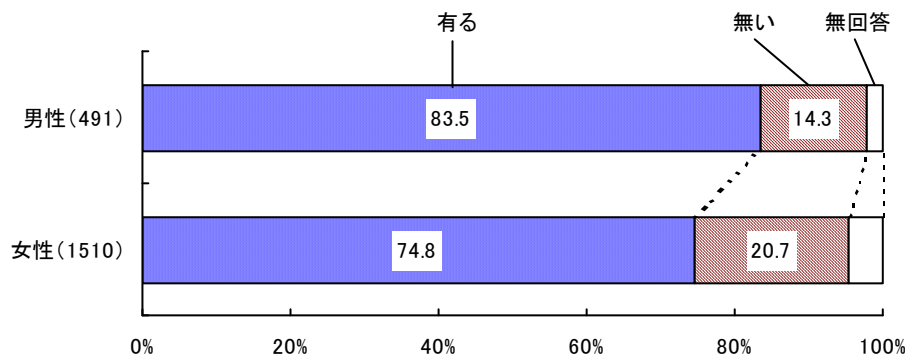
③支部主催の研修会

図-64 支部主催の研修会への参加経験



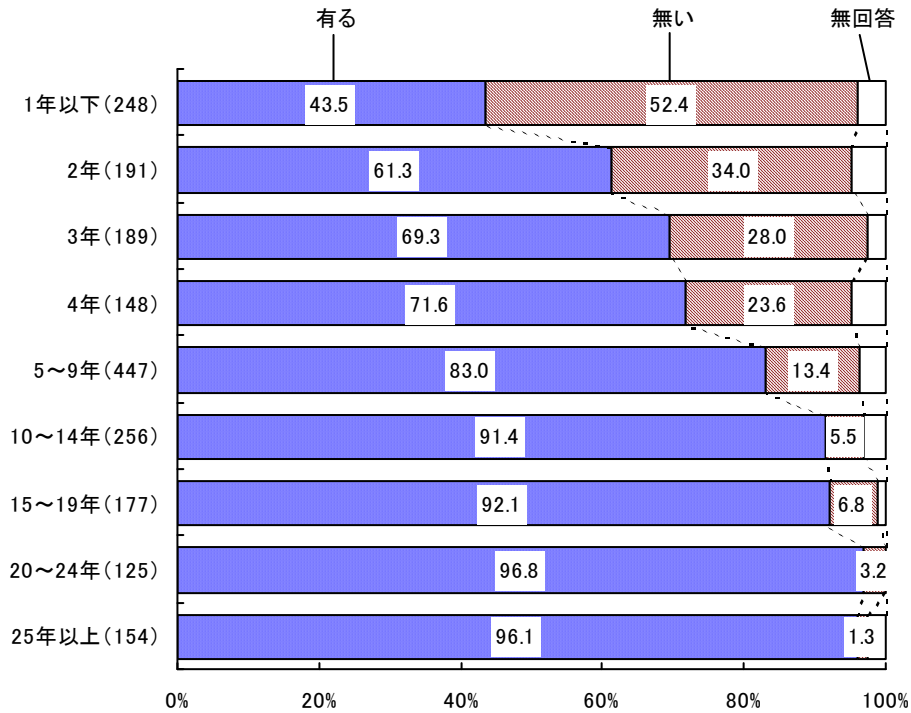
支部主催の研修会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は76.9%である。

図-65 支部主催の研修会への参加経験(性別)



性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、男性が女性を9ポイント程度上回っている。

図-66 支部主催の研修会への参加経験(会員期間別)



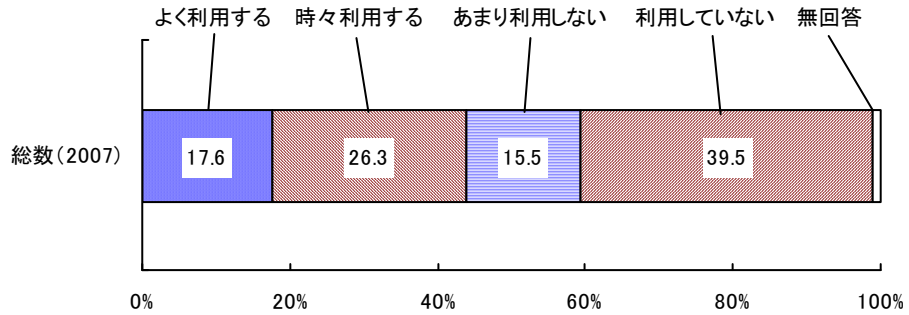
会員期間別にみると、会員期間が長くなるに伴い、着実に参加経験がある会員の割合が増えている。特に会員期間4年で同割合が7割を超えており、会員期間が5年未満のフレッシュ会員でも、多くが支部主催の研修会に参加している状況が窺われる。

会員期間が10年を超えると、いずれも参加経験者の割合が90%以上を占めており、会員期間10年以上の会員のほとんどが参加経験者といえる。

3) 協会ホームページ

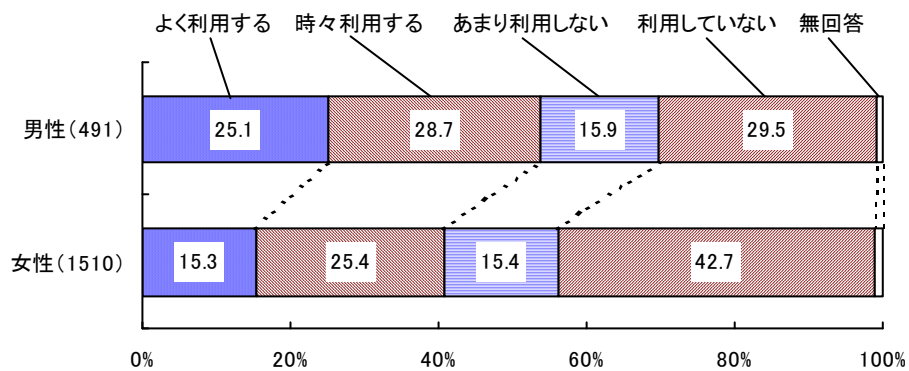
①パソコンの利用状況

図-67 パソコンの利用状況



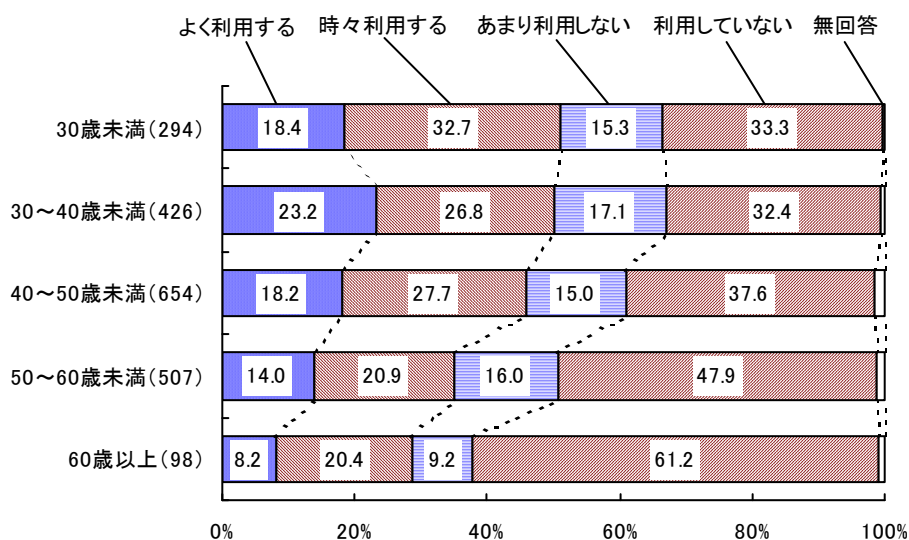
協会ホームページの閲読状況について分析するに当たり、まず、パソコンの利用状況について調査したところ、利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は43.9%である。

図-68 パソコンの利用状況(性別)



性別にみると、利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は、男性が女性を13ポイント程度上回っている。

図-69 パソコンの利用状況(年齢別)

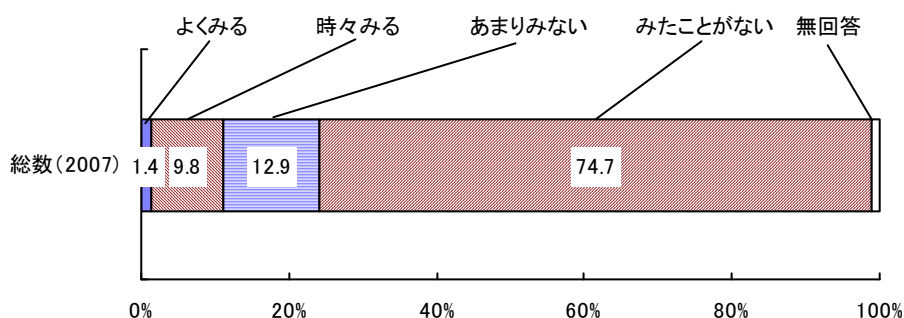


年齢別にみると、利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は、年齢層が高くなるほど低下する傾向がみられ、パソコンは若年層を中心に利用されている状況が窺われる。

ただ、利用している会員の割合が最も高い30歳未満でも、同割合が半数をわずかに上回っている程度である。これは、日々の看護業務にパソコンを利用しないことが影響していると推察される。

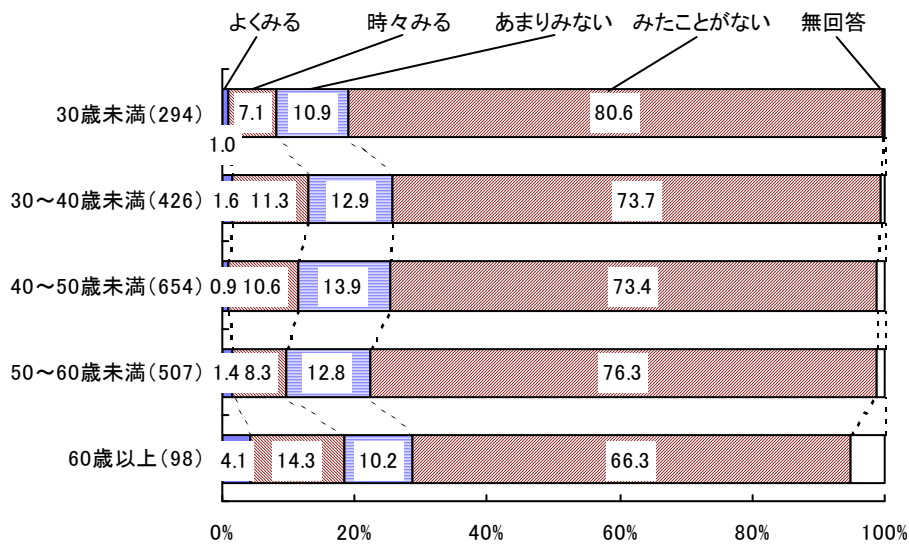
②協会ホームページの閲覧状況

図-70 ホームページの閲覧状況



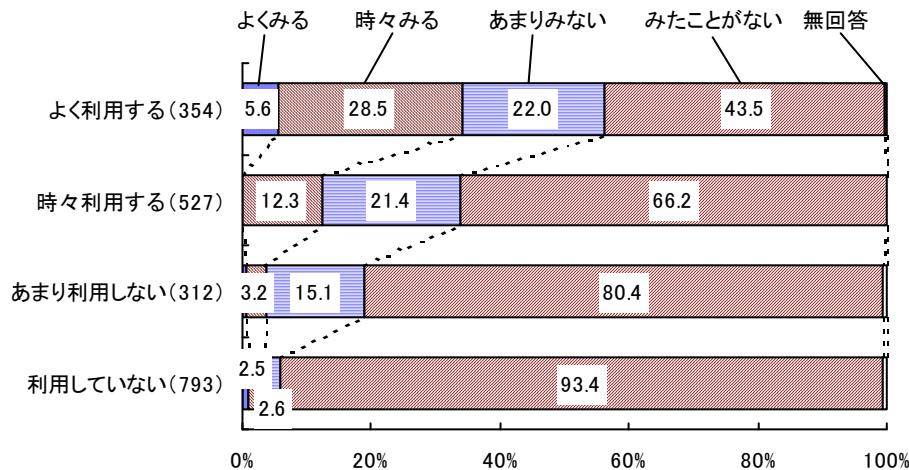
協会ホームページの閲覧状況についてみると、ホームページを閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合は11.2%である。

図-71 ホームページの閲覧状況(年齢別)



年齢別にみると、パソコンの利用率が高い30歳未満で閲覧している会員の割合が低く、対して60歳以上の高齢層で、閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合が高くなっている。

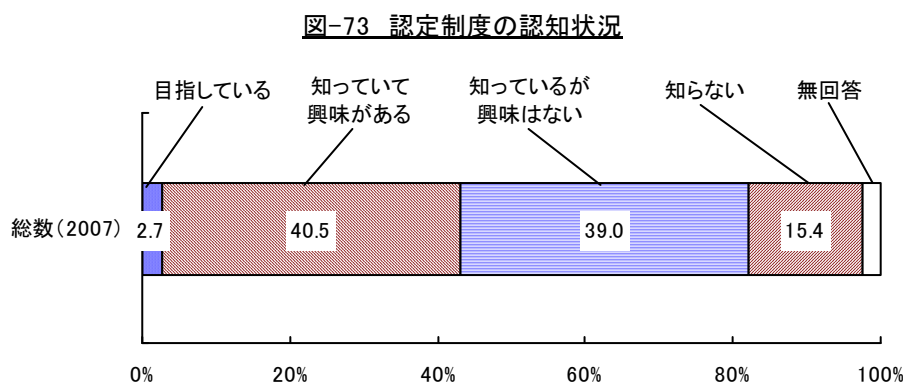
図-72 ホームページの閲覧状況(PC利用状況別)



パソコンの利用状況別にみると、パソコンをよく利用している人ほど協会ホームページを閲覧している会員の割合が高くなっている。

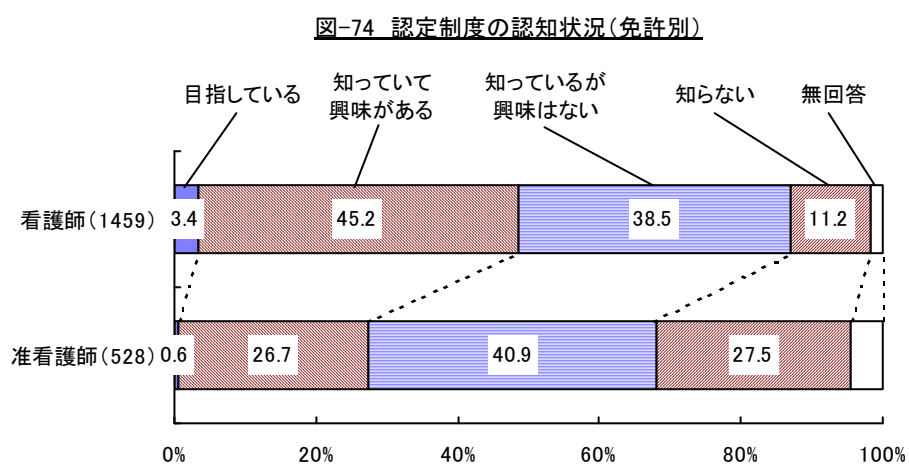
パソコンを「よく利用する」会員では、協会ホームページを閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合は34.1%である。

4) 認定制度の認知状況



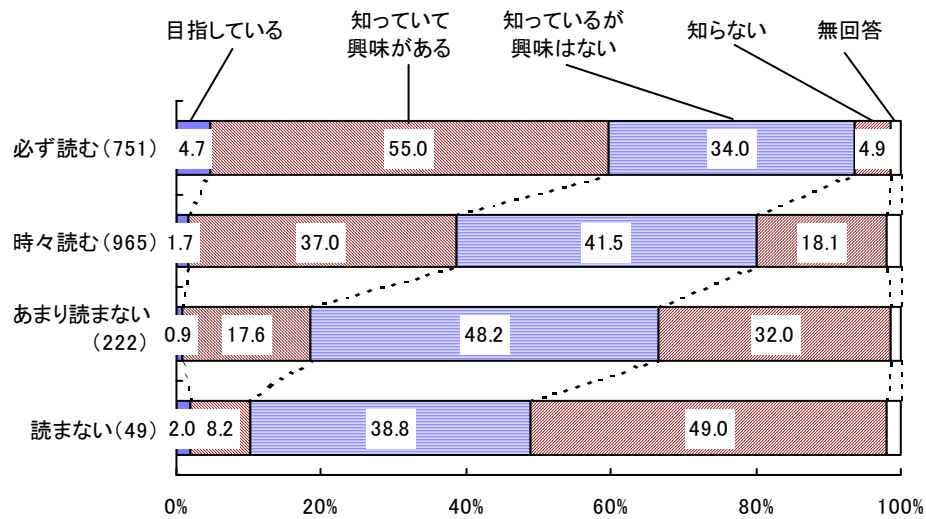
認定制度の認知状況について調査したところ、認知している（「目指している」+「知っていて興味がある」+「知っているが興味はない」）会員の割合は82.2%を占めている。

また、認定制度に興味を持っている会員も4割以上を占めている。



免許別にみると、認知している会員、興味を持っている会員の割合とも看護師が准看護師を上回っている。

図-75 認定制度の認知状況(日精看ニュース閲読状況別)

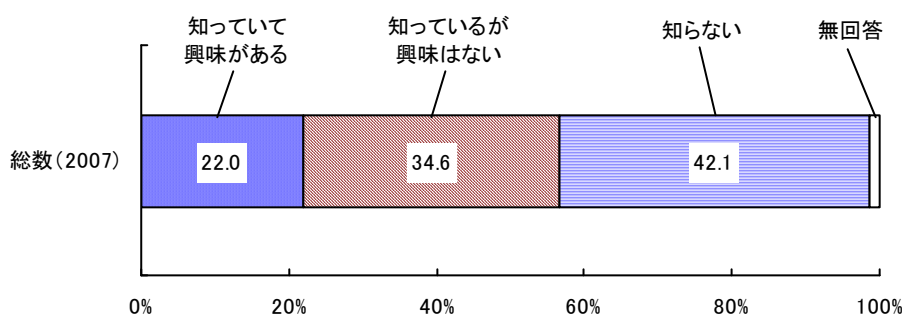


日精看ニュースの閲読状況別にみると、認知している会員、興味を持っている会員のどちらの割合も、日精看ニュースをよく閲読している会員ほど高くなっている。

日精看ニュースの閲読が、認定制度の認知や興味に大きな影響を与えていると推察される。

5) 協会主催の海外視察の認知状況

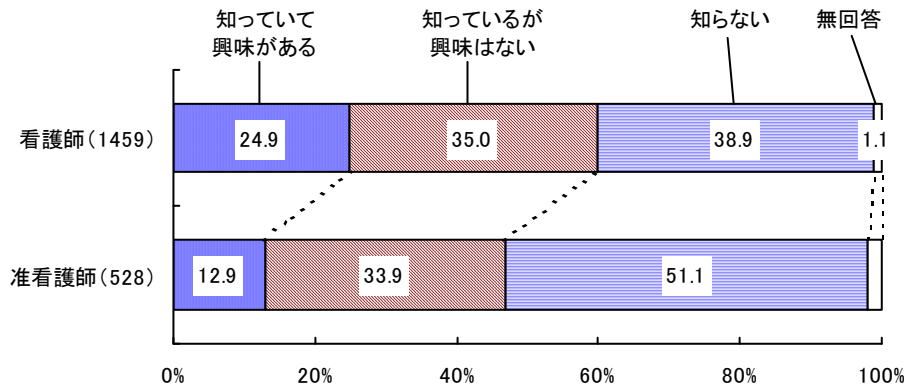
図-76 海外視察の認知状況



協会主催の海外視察の認知状況について調査したところ、認知している（「知っている興味がある」+「知っている興味はない」）会員の割合は 56.6%を占めており、半数の会員が認知しているといえる。

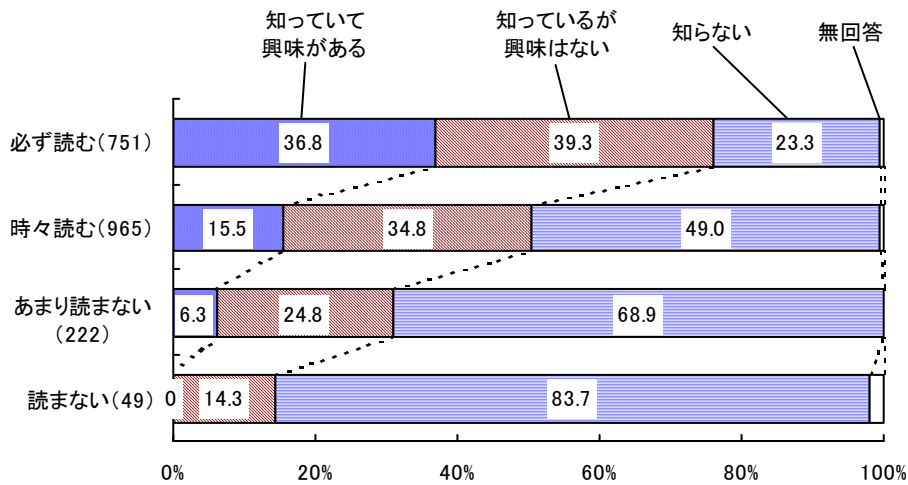
また、海外視察に興味を持っている会員は 22.0%である。

図-77 海外視察の認知状況(免許別)



免許別にみると、認知している会員、興味を持っている会員のどちらの割合も、看護師が准看護師を上回っている。

図-78 海外視察の認知状況(日精看ニュース閱讀状況別)



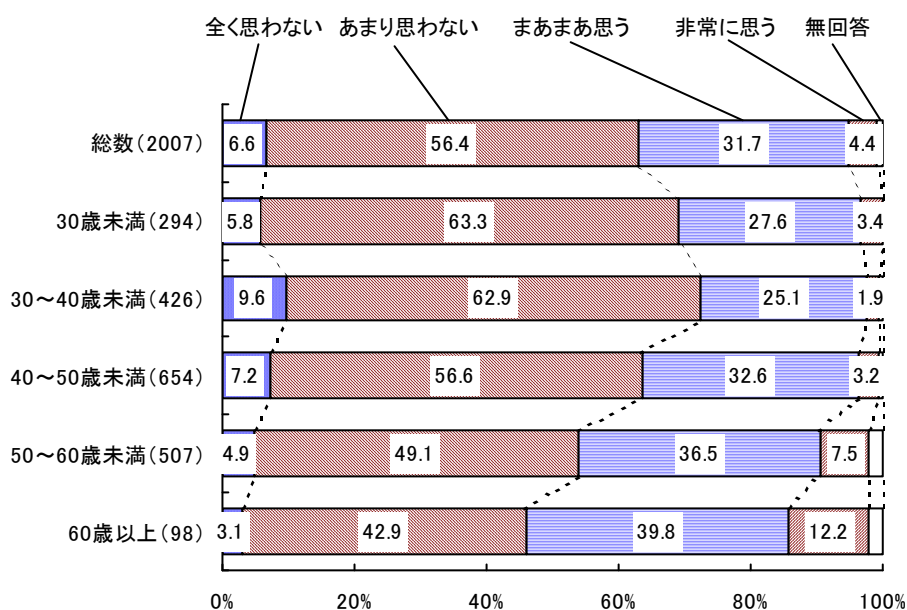
日精看ニュースの閱讀状況別にみると、認知している会員、興味を持っている会員のどちらの割合も、日精看ニュースをよく閱讀している会員ほど高くなっている。

日精看ニュースの閱讀が、海外視察の認知や興味に大きな影響を与えていると推察される。

§ 5. 精神科看護に対する考えについて

精神科看護は、社会的に認められていると思う

図-79 精神科は社会的に認められている(年齢別)

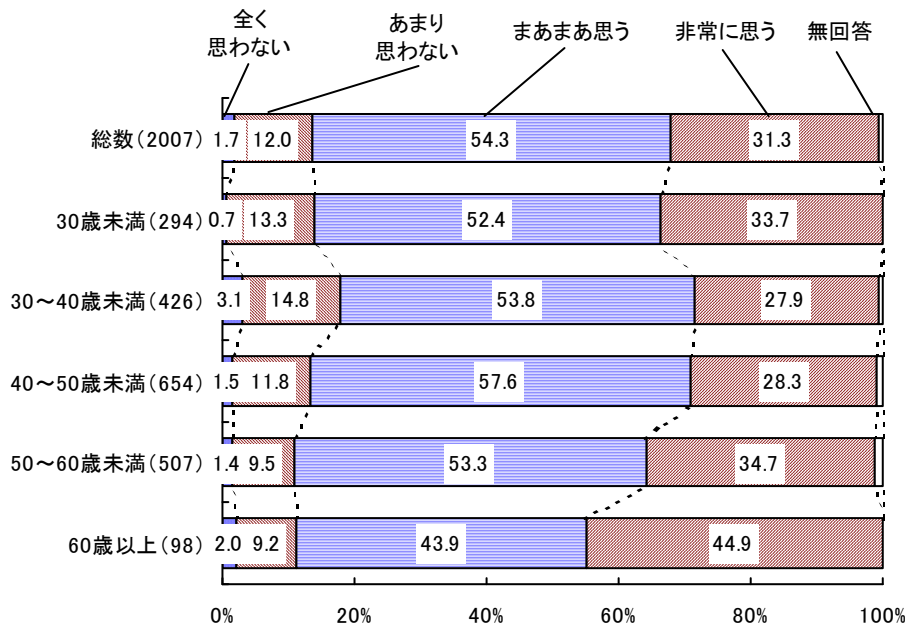


「精神科看護は、社会的に認められていると思う」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「あまり思わない」との回答が56.4%で半数以上を占めている。「全く思わない」を合わせれば6割を上回り、大半の会員が同考えに否定的な意識を持っていると考えられる。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど同考えに否定的な意識を持った会員の割合が低下し、肯定的な意識を持った会員の割合が高まる傾向がみられる。特に60歳以上では、肯定的な意識を持った会員の割合が、否定的な意識を持った会員のそれを上回っている。

精神科看護が好きである

図-80 精神科看護が好きである



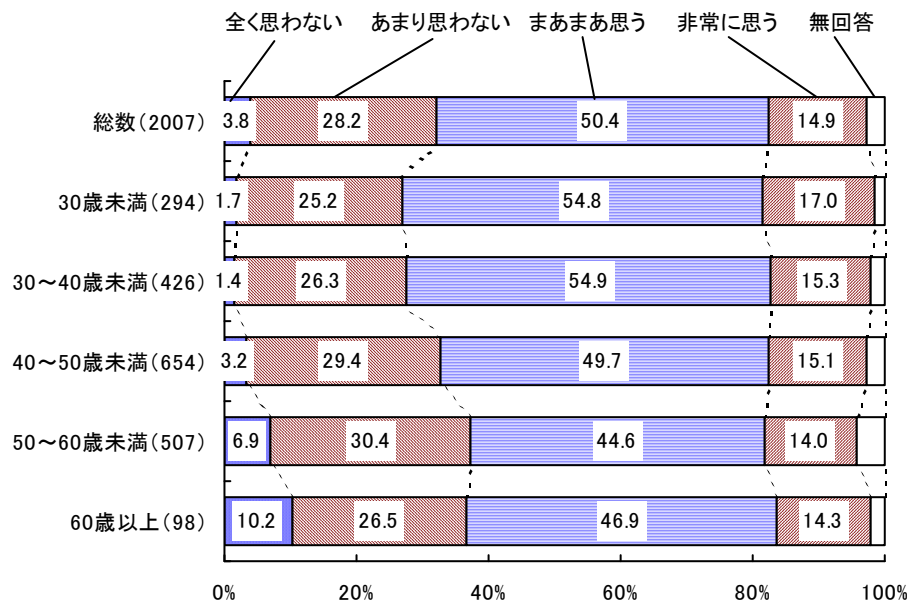
「精神科看護が好きである」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「まあまあ思う」との回答が54.3%で半数以上を占めている。「非常に思う」を合わせれば8割を大きく上回り、ほとんどの会員が同考えに肯定的な意識を持っていると考えられる。

年齢別にみると、いずれの年齢層においても同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が8割を超えており、年齢による同考えに対する意識の差はほとんどないとみられる。

また、60歳以上では、「非常に思う」が44.9%を占めており、高齢層では特に「精神科看護が好きである」との意識を強く持った会員の割合が高いといえる。

精神科看護は、定義が曖昧であると思う

図-81 精神科看護は定義が曖昧である

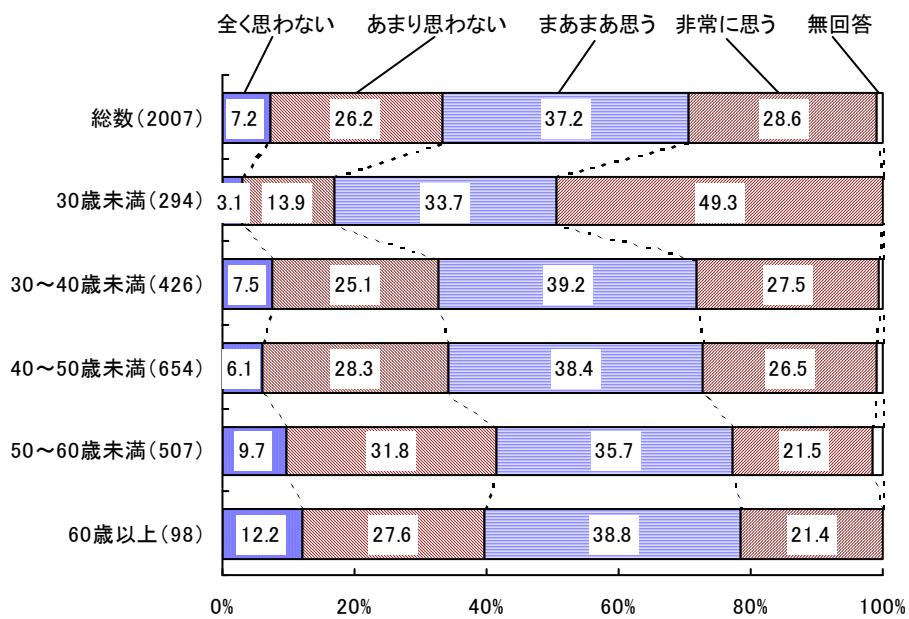


「精神科看護は、定義が曖昧である」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「まあまあ思う」との回答が50.4%で半数以上を占めている。「非常に思う」を合わせれば6割を大きく上回り、大半の会員が同考えに肯定的な意識を持っていると考えられる。

年齢別にみると、高齢層になるほど同考えに否定的な意識を持った会員の割合が高まる傾向がみられるが、いずれの年齢層においても6割以上の会員が同考えに肯定的な意識を持っており、年齢による同考えに対する意識の差はほとんどないとみられる。

精神科看護では、身体的ケア技術を習得できないので不安に感じることもある

図-82 精神科看護では身体的ケア技術を習得できない(年齢別)

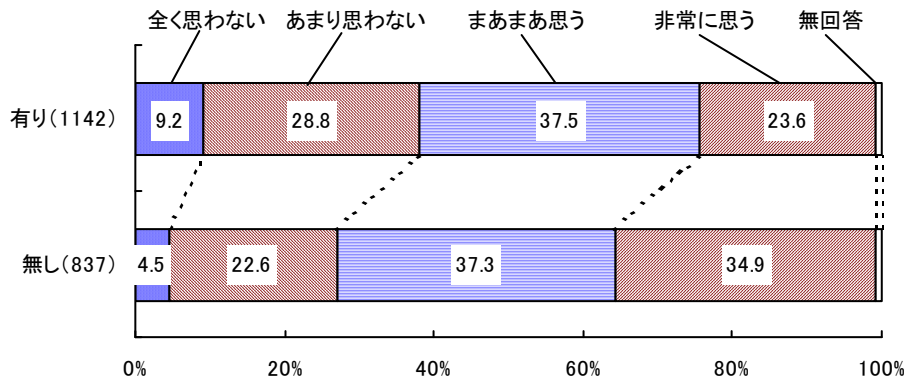


「精神科看護では、身体的ケア技術を習得できないので不安に感じることもある」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「まあまあ思う」との回答が37.2%を占め、「非常に思う」を合わせれば6割を大きく上回り、大半の会員が同考えに肯定的な意識を持っていると考えられる。

年齢別にみると、高齢層になるほど、同考えに肯定的な意識をもった会員の割合が低下する傾向がみられる。

30歳未満では、8割を超える会員が同考えに肯定的な意識をもっており、特に若年層において、身体的ケアを習得できな点に不安を持っている人が多いとみられる。

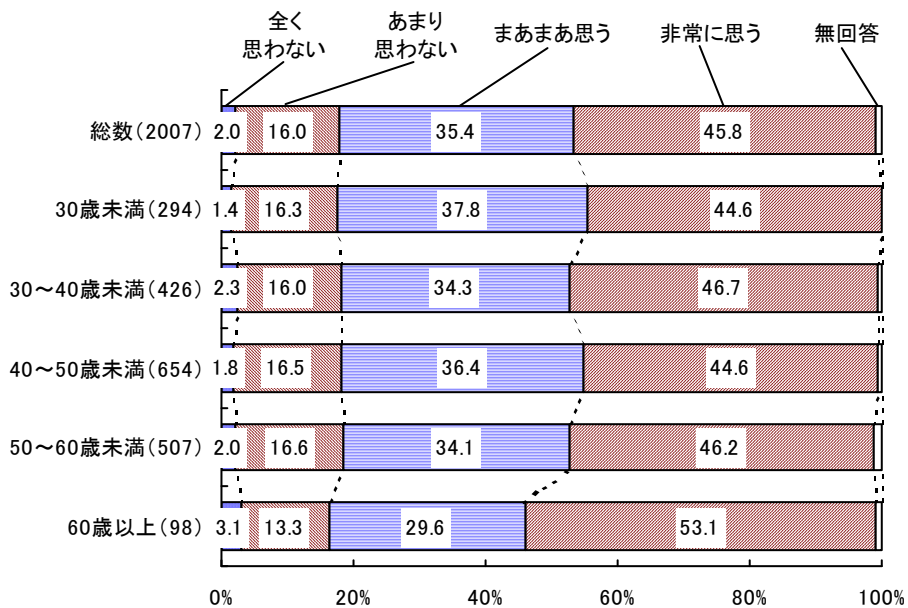
図-83 精神科看護では身体的ケア技術を習得できない(転職経験の有無別)



これを、転職経験の有無別にみると、「非常に思う」と回答した人の割合が、転職経験が無い人が、ある人を10ポイント以上上回っている。転職経験が無く精神科だけに勤務している人は、そうでない人に比べて同考えを強く意識している人が多いとみられる。

精神科看護は、他の分野に比べて専門性が高いと思う

図-84 精神科看護は専門性が高い(年齢別)



「精神科看護は、他の分野に比べて専門性が高いと思う」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「非常に思う」との回答が45.8%を占めており、同考えを強く意識している会員の割合が高いといえる。

また、「まあまあ思う」を合わせれば8割を上回り、ほとんどの会員が同考えに肯定的な意識を持っていると考えられる。

年齢別にみると、いずれの年齢層においても同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が8割を超えており、年齢による同考えに対する意識の差はほとんどないとみられる。

日本精神科看護技術協会会員実態調査報告書

発行日 平成14年12月

発行 社団法人 日本精神科看護技術協会

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 2-3-2

TEL03-3667-8661 FAX03-3667-8662

集計・分析 有限会社 ヘルスケア総合研究所

〒181-0005 東京都三鷹市中原 4-25-14

TEL0422-43-3557 FAX0422-43-3557

本書の一部または全文を著作権法の定める範囲を超え、無断で複写、複製、転載、テープ化、ファイル化することを禁じます。